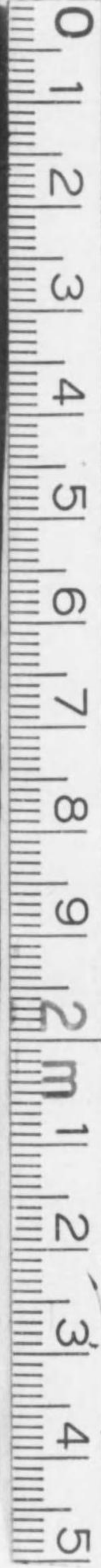


特 253

964

正量部檢查手續



始



特253
964

正量部検査手續

目次

總 說

第一節 正量部ニ屬スル検査ノ検査規定……………

第二節 検査ニ提出スベキ生絲ノ數量……………

第三節 検査手數料……………

第四節 検査作業順序ノ梗概……………

第一章 受付掛

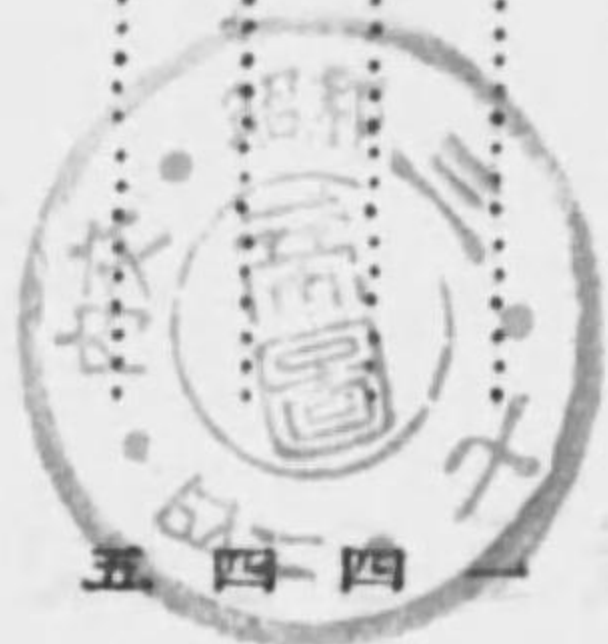
第一節 生絲検査請求書(依頼書)及生絲ノ受付……………

第二節 檢定證謄本……………

第三節 検査手數料ノ取扱……………

第四節 生絲預證……………

第五節 生絲預證代證書……………



第六節	檢查順位及再調査	一一
第七節	出張検査ノ受付	一四
第八節	生絲ノ目標	一四
第九節	生絲ノ還付及料絲引渡	一六
第十節	受付時間ト検査ノ締切	一八
第十一節	受檢生絲ノ監理	一九

第二章 大天掛

第一節	豫備検査	二〇
第二節	拔絲調査	二〇
第三節	供試料絲ノ採取	二三
第四節	總全量秤定	二三
第五節	風袋	二七
第六節	生絲ノ整理	三〇
第七節	袋詰後ノ再調	三三
第八節	生絲調査	三六
第九節	検査ニ要スル機械器具ノ準備	四七

第三章 中天掛

第一節	原量ノ秤定	五〇
第二節	検査表ノ調製	五一
第三節	風袋量ノ計算	五二

第四章 乾燥掛

第一節	料絲ノ配附	五五
第二節	無水量ノ秤定	五七
第三節	器具ノ調整	五九
第四節	計算	六二
第五節	料絲整理	六四

第五章 檢定證掛

第一節	検査成績ノ計算	六四
第二節	檢定證ノ調製	六五
第三節	受渡完了届ノ整理	六九

第四節 水分並ニ正量目ノ調査.....七〇

第六章 練減検査.....七〇

第七章 計算表.....七二

第一節 水分求率表ノ組織.....七三

第二節 水分求率表ノ調製.....七三

第三節 水分求率表ノ使用法.....七五

第四節 正量算出表ノ組織.....七五

第五節 封度換算表.....八一

第六節 正量算出表ノ使用法.....八二

第八章 電気掛.....八三

第一節 電気装置.....八四

第二節 變電室及配線.....八八

第三節 乾燥電熱.....八九

第九章 衡器.....九〇

第一節 構造及作用ノ概要.....九〇

第二節 使用心得.....九三

附 錄

諸届書様式.....九七

正量部検査手續

總 說

第一節 正量部ニ屬スル検査ノ検査規程

正量部ニ在リテハ生絲ノ正量、水分、原量、練減ノ各検査及ビ其レ等ノ檢定證調製ニ關スル事項ヲ掌ル而シテ之ガ検査規程ヲ掲グレバ

一、輸出生絲検査法ニ據ル正量検査

一 荷口全部ノ生絲ニ對シ各俵毎ニ其ノ全量ヲ秤量シ各俵ノ全量中ヨリ其ノ風袋量（供試料絲ヲ採取シタル俵ニ在リテハ其ノ風袋量及水分率検査ノ用ニ供シタル供試料絲ノ重量）ヲ控除シテ各俵ノ原量ヲ定ム

一 荷口ノ總俵數ノ十分ノ四（端數ハ之ヲ切上グ）ニ相當スル俵數ノ生絲ニ付各俵毎ニ其ノ異ナレル括ヨリ採取シタル供試料絲八本ヲ同數ノ二區ニ分チ各區ニ付原量ニ對スル水分量ノ百分比例ヲ求メ之ヲ平均シテ其ノ俵ノ水分率トシ（但シ二區ノ水分率ノ差カ百分比ニ於テ〇、五以上ナルトキハ他ノ異ナレル括ヨリ採取セル四本ノ供試料絲ヲ一區トシテ其ノ水分率ヲ求メ三區ノ水分率ヲ平均シテ其ノ俵ノ

水分率トス)各俵ノ水分率ヲ平均シタルモノヲ以テ其ノ荷口ノ水分率トス、但シ各俵ノ水分率中其ノ最モ多キモノト最モ少ナキモノトノ差ガ百分比ニ於テ一以上ナル時ハ更ニ其ノ荷口ノ十分ノ一(端數ハ之ヲ切上ク)ニ相當スル他ノ水分率ヲ求メ之ヲ加算平均シタルモノヲ以テ其ノ荷口ノ水分率トス

各俵ノ原量ニ其ノ荷口ノ水分率ヲ乗ジタル積ヲ其ノ原量ヨリ控除シテ其ノ俵ノ無水量ヲ求メ之ニ其ノ百分ノ十一ヲ加ヘタルモノヲ以テ其ノ俵ノ正量トス

各俵ノ正量ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ荷口ノ正量トス

二、普通ノ正量検査

(イ)一荷口ニ付行フ検査

輸出生絲検査法(前項規程)ト同一又ハ之ニ準ズル方法ニ依リ正量ヲ定ムルモノトス

(ロ)各俵又ハ各捆ニ付行フ検査

各俵又ハ各捆ニ付其ノ全量ヲ秤量シ其ノ全量中ヨリ其ノ風袋量及水分率檢定ノ用ニ供シタル供試料絲ノ重量ヲ控除シテ其ノ俵又ハ捆ノ生絲ノ原量ヲ定メタル後其ノ異ナレル括ヨリ採取シタル供試料絲八本ヲ同數ノ二區ニ分チ各區ニ付原量ニ對スル水分量ノ百分比ヲ求メ之ヲ平均シテ其ノ俵又ハ捆ノ水分率トシ(但シ二區ノ水分率ノ差ガ百分比ニ於テ〇、五以上ナルトキハ他ノ異ナレル括ヨ

三、水分検査

生絲ノ全部ニ付其ノ原量ヲ算定シタル後其ノ無水量ヲ求メテ其ノ水分率ヲ求ムルモノトス

リ採取セル四本ノ供試料絲ヲ一區トシテ其ノ水分率ヲ求メ三區ノ水分率ヲ平均シテ其ノ俵又ハ捆ノ水分率トス)其ノ生絲ノ原量ニ此ノ水分率ヲ乗ジタル積ヲ原量ヨリ控除シテ其ノ俵又ハ捆ノ無水量ヲ求メ之ニ其ノ百分ノ十一ヲ加ヘタルモノヲ以テ其ノ俵又ハ捆ノ正量トス

四、原量検査

生絲ノ全部ニ付一俵又ハ一捆毎ニ其ノ全量ヲ秤量シ其ノ全量中ヨリ風袋量ヲ控除シテ其ノ原量ヲ算定スルモノトス

五、練減検査

三本ヲ三區ニ分チ其ノ二區ニ付各別ニ其ノ無水量ヲ求メタル後之ヲ精練シテ再ビ其ノ無水量ヲ求メテ其ノ練減量ヲ算出シ之ト精練前ニ於ケル無水量トノ百分比ヲ求メ之ヲ平均シタルモノヲ其ノ練減率トス但シ二區ノ練減率ノ差ガ百分比ニ於テ一以上ナルトキハ他ノ一區ヲ精練シテ其ノ練減率ヲ求メ三區ノ練減率ヲ平均シテ其ノ練減率トス

第一節 検査ニ提出スベキ生絲ノ數量

四

- 一、正量検査
 - (イ) 一荷口ニ付行フ検査ハ每件一荷口ニ屬スル俵又ハ一捆全部
 - (ロ) 各俵又ハ各捆ニ付行フ検査ハ每件一俵又ハ一捆以上
- 二、原量検査 每件一俵又ハ一捆以上
- 三、練減検査 每件三本
- 四、水分検査 (特別) 每件一本乃至四本
- 五、原量検査 (特別) 每件一本以上一捆未滿
- 六、練減検査 (特別) 每件一本又ハ二本

第三節 検査手数料

- 一、正量検査
 - (イ) 一荷口ニ付行フ検査 一俵又ハ之ニ相當スル數量ニ付 壹圓
 - (ロ) 各俵又ハ各捆ニ付行フ検査 一俵又ハ一捆ニ付 壹圓五拾錢
- 二、原量検査 一俵又ハ一捆ニ付 七拾五錢

三、練減検査 一件ニ付 貳圓

生絲検査手数料令第一條第二項ノ増加手数料

- 一、出張検査ヲ請求スル場合 一俵ニ付 六拾錢
- 二、水分率ヲ檢定スベキ俵數ノ割合ノ増加ヲ請求スル場合 壹圓

生絲検査手数料令第二條第二項ノ規定ニヨリ定メラレタル特別検査手数料

- 一、水分検査 一件ニ付 壹圓
- 二、原量検査 一件ニ付 五拾錢
- 三、練減検査 一件ニ付 貳圓
- 四、検査成績謄本料 一通ニ付 五錢

第四節 検査作業順序ノ梗概

前節記載ノ検査ヲ遂行スルニ當リ便宜上之ヲ受付掛、大天掛、中天掛、乾燥掛、檢定証掛ノ五掛ニ分チ業務ノ進捗ヲ計レリ而シテ之レガ作業順序ノ梗概ヲ摘記スレバ下ノ如シ

- 一、受付掛ニ在リテハ各商店ヨリ検査ヲ請求シ來レル生絲ヲ請求書又ハ依頼書ト共

ニ之ヲ受理シ請求書又ハ依頼書ト（以下依頼書ノ記入ヲ畧ス）現品トヲ照合シ且ツ検査手數料額ノ當否ヲ確メ生絲受付臺帳ニ要項ヲ記入シタル後請求者ニ生絲預證ヲ交付ス又請求書ハ手數料印紙ニ消印ヲ押捺シタル上中天掛ヘ廻付シ生絲ハ検査順位ヲ定メ大天掛ヘ引繼グモノトス

二、大天掛ニ在リテハ已定ノ順序ニ依リ生絲ヲ金巾袋ヨリ取出シ拔絲ノ本數ヲ調査シタル上供試料絲ヲ總俵數ノ十分ノ四ニ相當スル俵ヨリ採取シタル後總全量、括數、風袋量等ヲ檢シ其ノ量目ヲ傳票ニ記入シテ料絲ト共ニ中天掛ニ送付ス生絲ハ風袋整理ヲ行ヒ總全量ノ再調ヲナシ受付掛ヘ引繼グモノトス

三、中天掛ニ在リテハ受付掛ヨリ廻付セル請求書ニ依リテ検査表ヲ調製シ大天掛ヨリ廻付セラレタル總全量及風袋量ヲ各傳票ニヨリテ検査表ニ記入シ總風袋量ノ計算ヲナシ總原量ヲ算出シタル上檢定証掛ヘ送付ス

供試料絲ハ其ノ原量ヲ檢シタル上乾燥掛ヘ送付スルモノトス
四、乾燥掛ニ在リテハ料絲ヲ乾燥シ無水量ヲ檢シ水分率ヲ算定シタル上其ノ成績ハ檢定証掛ヘ送り料絲ハ之ヲ整理シテ受付掛ヘ廻付ス

五、檢定証掛ニ在リテハ請求書ニ依リテ檢定証ノ下拵ヘヲナシ検査成績表ノ送付ヲ待チテ之ガ計算並ニ調査ヲ行ヒ檢定証ヲ調製シ請求書ヲ添ヘ之ヲ受付掛ヘ送付ス受付掛ハ各俵ノ檢定証ハ俵中ニ挿入シ封印ヲ施スモノトス又之ヲ俵中ニ挿入セザ

ルモノニ在リテハ検査濟證票ト同一ノ證票ヲ挿入シ検査濟證票ハ各俵毎ニ之ヲ結
附ス

此ノ如クシテ正量検査全ク結了セルトキハ其ノ旨ヲ検査請求者ニ通知シテ預書ト引替
ヘニ生絲ヲ還付シ檢定證ヲ交付ス。

之ヲ要スルニ受付掛ハ生絲並ニ書類ノ受授ヲ、大天掛ハ生絲ノ全量、風袋量ノ秤定及
已檢生絲ノ整理ヲ、中天掛ハ供試料絲ノ秤定及検査表ノ調製風袋量ノ計算ヲ行ヒ、乾
燥掛ハ料絲ノ乾燥並ニ整理、檢定証掛ハ成績表ノ計算及檢定證ノ調製ヲナスモノトス
以下章ヲ追ヒ項ヲ分チテ之ヲ詳述スベシ

第壹章 受付掛

第一節 生絲検査請求書（依頼書）及生絲ノ受付

生絲検査請求書及検査依頼書ハ其ノ様式規定セラレタルヲ以テ請求者ハ生絲検査所ニ
其ノ交付ヲ願出ヅルカ或ハ其ノ雛形ニ倣ヒ各自之ヲ調製スルコトヲ得ベシ該請求書中
輸出生絲検査法ニ據ル検査ハ赤刷トシ出張検査ノ分ハ藍刷トナシ、普通検査ノ分即チ
検査依頼書ハ黒刷トナス而シテ普通検査ニ於ケル正量、原量、練減及特別水分検査ハ

同一用紙ヲ使用シ得ラル、様其レ等ノ諸項目ヲ刷込ミアルヲ以テ依頼セムトスル検査以外ノ項目ハ之ヲ抹消シ提出スルモノトス
 請求書中ニ記載セル文字ハ其ノ検査中ニ在リテハ改訂ヲ請求スルコトヲ得ベシト雖モ生絲搬出後ハ之ヲ請求スルコトヲ得ザルモノトス
 唯特例トシテ檢定證交付後ト雖モ記號又ハ請求者名ノ追加請求ヲナスコトヲ得然レドモ此場合ニ於テハ検査請求ノ際豫メ許可ヲ受クルモノトス
 検査請求書ハ検査ニ必要ナル事項ヲ其ノ所要欄ニ記載シ生絲ト共ニ受付掛ヘ提出スルヲ以テ受付掛ハ生絲ト請求書トヲ照合シ検査臺帳ニ登錄シ検査ノ順位番號ヲ附シ其ノ書類ハ之ヲ手数料係ニ送ル生絲ヲ受付クル際ハ包装外部ニ破損又ハ雨濕ノ有無ヲ檢スベシ若シ雨天ノ際棚又ハ金巾袋ニ濡ヲ生ジ居タルトキハ直ニ内部ノ生絲ヲ檢シタル上之ヲ受理スルモノトス

第二節 檢定證 謄本

検査證謄本請求書ハ一定ノ様式アリ、本所ニ於テ印刷シ請求者ノ申出ニヨリ下付スルヲ以テ之ヲ使用スベシト雖モ又請求者ニ於テ其ノ様式ニ從ヒ印刷使用スルモ差支ナシ檢定證ノ謄本ハ賣買仕切書ノ代用ヲナスモノナレバ各荷口毎ニ必要ナルヲ以テ検査請

求ト同時ニ之ヲ請求スル場合ハ別ニ謄本ノ請求書ヲ提出セズ検査請求書ノ欄外ニ其ノ通數並ニ手数料額ヲ記入シ之ニ對スル印紙ヲ貼附シテ提出スルトキハ檢定證ト同時ニ調製交付スルコトヲ得ルナリ

第三節 検査手数料ノ取扱

検査手数料ハ收入印紙ヲ請求書ニ貼附シテ納入スル定メナルヲ以テ請求書ヲ受理シタルトキハ生絲ノ員數ト照合シテ其ノ額ニ過不足ナキヤヲ確メ之ヲ庶務課ヨリ出張セル手数料取扱係ヘ廻付ス然ルトキハ手数料臺帳ニ請求者名、生絲員數、手数料額等ヲ記載シタル後印紙ハ黒肉ヲ用キ消印ヲ押捺シ其ノ請求書ハ検査係ヘ返付スルモノトス而シテ右消印ヲ押捺シタル印紙ハ再使用ヲ爲スコト能ハザルヲ以テ之レガ消印ヲ爲ス以前ニ請求シタル生絲ハ検査ヲ施行スル資格ヲ有スルヤ否ヤヲ確ムル必要アルモノトス

第四節 生絲 預證

受付臺帳ニ所要事項ノ記入ヲ終リタル時ハ生絲預證 A (總荷ニ對スル分) B (水分檢

定ノ用ニ供スル供試料絲ニ對スル分ノ一通ヲ作製ス、生絲預證ニハ預證番號、受付番號、俵相別員數又ハ本數ヲ記入シ所印ヲ押捺シ又請求書ト預證トニ所印ヲ以テ割印ヲ施シタル後請求者ニ之ヲ交付スルモノトス生絲預證交付ノ際ハ必ず請求者ニ對シ請求者名並ニ其ノ請求セル生絲ノ員數ヲ質スベシ而シテA預證ハ數荷口ヲ一枚ニ取纏メ作製スルコトアルモB預證ハ必ず一荷口毎ニ之ヲ作製ス之等ノ預證ハ検査終了後検査生絲ヲ受取ル際引替ヘノ證トナルベキモノナルヲ以テ料絲ニ對スル分ハ請求者ノ手ヨリ賣方タル問屋ヘ廻付サル、モノナレバ之ヲ一荷口毎ニ交付スル必要アルガ故ナリ
A即チ總荷ニ對スル預證ハ赤刷トナシB即チ供試料絲ニ對スル分ハ藍刷トナス尙B預證ニハ其ノ欄外ニ必ず取引ノ相手方タル問屋名ヲ記號ニテ記載スルモノトス

第五節 生絲預證代證書

生絲預證紛失シタル場合ハ左記ノ雛形領收證ニ検査請求者及ビ取扱主任ノ捺印ヲ以テ請求生絲ヲ受取ラシム

三 錢 收	證
一、生絲員數	

入 印 紙	一、記號番號	自	番	至	番
	一、製產者	自	番	至	番
	一、受付番號	自	番	至	番
	一、検査請求者				
	一、検査請求年月日	昭和	年	月	日
	右ノ生絲ニ對シ昭和 年 月 日御所ヨリ御交付相成候第 號 預證紛失致候ニ付本證ヲ呈供シ前記生絲正ニ受取候也 但シ第 號預證ハ自今無効タルベキハ勿論後日發見候節ハ直ニ返納可 仕候				
	年	月	日	検査請求者	
				取扱主任	記 名 印
	生絲検査所 御 中				

第六節 検査順位及再調査

(イ)番號札打 検査順位ハ請求者及生絲ノ提出順序ニヨリ之ヲ定ム番號札ハ總荷番號及

水分番號ノ二種ニシテ總荷番號札ハ「アルミニウム」製トシ水分番號札ハ木製トス
 總荷番號札ハ表面ハ黒、裏面ハ朱ニテ數字ヲ記入ス検査中ハ表面即チ黒ノ番號ヲ用
 キ検査終了シ再調濟トナリタルトキハ裏面即チ朱ノ番號ヲ用ウルモノトス故ニ其ノ
 係以外ノ者ニテモ其ノ生絲ガ検査終了シタルモノナルヤ否ヤヲ容易ニ見別スルコト
 ヲ得ベシ而シテ總荷番號ハ検査濟證票ノ番號ト千以下ノ數字ヲ一致セシムル必要上
 前日ノ終リ番號ヲ（一千番以内ニ於テ）追ツテ札打スルモノトス例ヘバ昨日ノ最終
 番號ガ九八二番ナルトキハ本日ノ番號ハ九八三番ヨリ始ムルモノトス而シテ當日千
 二十俵ノ検査ヲ爲ストキハ最終番號ハ二、〇〇二番ナルガ故ニ翌日ノ番號ハ三番ヨ
 リ始ムルコト、ナルナリ

検査濟證票ニハ一ケ年ヲ通ズル検査番號ヲ記入スルヲ以テ検査ノ受付番號ヲ毎日一
 番ヨリ始ムルトキハ検査番號ト一致セザレバ番號引合ハセ上不便多キヲ以テ右ノ如
 ク千番以下ノ數字ヲ一致セシムベク札打ヲナスモノトス
 水分番號ハ毎日一番ヨリ始メ一荷口ノ俵數ノ十分ノ四ニ相當スル俵例ヘバ一荷口十
 俵トスルト其ノ1、3、5、7又ハ2、4、6、8或ハ3、5、7、9ノ俵ニ一番
 ヨリ順次札打スルモノトス故ニ料絲ヲ採取スル俵ニアリテハ検査番號ト水分番號ト
 ノ二重ニ札打サル、モノトス札打ヲ爲シタルトキハ其ノ番號ヲ金巾袋ノ一端ニ結附
 セル紙札ニ赤鉛筆ヲ用キ算用數字ニテ記入ス若シ其レガ原量検査ノ場合ハ日本數字

ニテ記入シ兩検査ヲ區別シ相造ノモノニアリテハ蓋ニ白墨ヲ以テ之ヲ記載ス

受檢生絲ノ荷口ヲ變更スル毎ニ荷口ノ最初ノモノニ検査番號數字ノ下ニ赤鉛筆ニテ
 横線二本ヲ引キ一見荷口ノ更新スルコトヲ知ラシムルノ便ニ供ス

(ロ) 生絲ノ排列 検査ニ提出サル、生絲ハ少クモ十俵以上多キハ數百俵ヲ同時ニ搬入ス
 ルガ故各荷口毎ニ記號ノ番號順ニ排列セシメザルベカラズ然ラザレバ検査ノ順位ヲ
 誤リ且ツ作業ヲ遲延セシムルコトアルガ故ニ請求者側ノ定備夫又ハ生絲ノ運搬夫ヲ
 シテ之ヲ行ハシムルモノトス

(ハ) 再調査 札打ノ再調査ハ大天掛ノ再調終了ヲ俟ツテ之ヲ行フモノニシテ極メテ緊要
 ナルモノニ屬ス即チ金巾袋、打札捆ト其ノ蓋ノ變換等ノ過誤ナキヤヲ臺帳ト照合シ
 タル上番號札ヲ表裏轉換シ朱書ノ方ヲ表ニシテ再調完了ノ證トナス

尙黃繭絲ニアリテハ之ヲ明カナヲシメン爲ニ大天掛ヨリ黃繭絲調査用小簿ニ其ノ檢
 査番號ヲ記載シ報告アルガ故之ヲ臺帳ト引合ハセヲナスモノトス

(ニ) 検査濟證ト封印 再調査ヲ了シタルトキハ検査濟證票ヲ金巾袋ノ一端ニ結附シ其
 ノ結目ニハ生絲検査所ノ徽章ヲ印刷セル封印紙ヲ以テ封印ヲナスモノトス而シテ各
 俵（捆）ノ檢定證ハ生絲ノ包裝中ニ挿入シ袋ノ口ヲ縮メテ其ノ結目ヲ括絲ニテ緊結
 シタル上封印紙ヲ以テ封印ヲ施スモノトス但シ請求者ノ希望ニヨリ檢定證ヲ包裝中
 ニ挿入セザルトキハ検査濟證票ト同様ノ證票ヲ包裝中ニ挿入スルモノニシテ此場合

ニ在リテハ袋ノ口ノ封印ヲ施サザルモノトス
相裝生絲ハ輸出生絲ノ検査ニアラザルモ横濱取引所ノ生絲ニ限り輸出生絲検査法ニ
準ズルヲ以テ必ズ検査定證ヲ挿入シ且ツ封印ヲ施スモノトス

第七節 出張検査ノ受付

出張検査ハ各出張所ニ於テ請求書並ニ生絲ノ假受付ヲナシ番號ヲ附シタル上供試料絲
ヲ採取シ之ガ原量ヲ秤リA B各別ニ「セルロイド」製ノ丸札ヲ附シタル「テープ」ニ
テ緊結シ一荷口分宛通ヒ袋ニ納メ封印ヲ施シ請求書、検査臺帳（出張所ニ於テ作製ス
ルモノ）傳票等其ノ生絲ニ對スル書類ヲ添へ送付シ來ルヲ以テ之ヲ受付ケ其ノ件數及
俵數ヲ受付臺帳ニ記入シタル上料絲ノ預證ヲ交付ス出張所ニテ附シタル番號ハ假番號
ナレバ之ヲ本番號ニ直シ料絲ハ袋ヨリ取出シ料絲函ニ入レ替へ乾燥室ニ送付シ請求書
ハ印紙ニ消印ヲ施シタル上、原量、風袋傳票ト共ニ中天掛へ廻付スルモノトス

第八節 生絲ノ目標

輸出生絲ハ總テ正量検査ヲ受ケザルベカラザル關係上取引ノ旺盛ナル時期ニ於テハ多

數ノ生絲ガ殺倒シ來リ且ツ其ノ荷造ガ一樣ナルヲ以テ多數請求者ノ荷物ガ相互ニ混交
スル恐レアルヲ以テ生絲ニハ必ズ特別ノ札紙ヲ附シ請求者毎ニ異ナリタル表示法ヲ行
フ、今其ノ表示法ニヨル目標ヲ示セバ

原輸出 赤インクヲ以テ筆ニテ工場名、入荷月日、番號記入青インクニテ記號
記入

- 日米生絲 太筆黒字ニテ工場名及番號記入
- 江 商 細筆黒字ニテ工場名、記號番號記入
- 旭シルク 青インクニテ筆書工場名、問屋名及記號番號記入
- 二五四番 黒字及赤インクニテ追番號外羅馬字記號ヲ記入ス
- 九四番 黒鉛筆ニテ追番號ヲ記入ス
- 九五番 黒鉛筆ニテ工場名及追番號記入、紫ニテ九五ノ印ヲ押捺ス
- 甲九〇番 紫ニテ〇ヲ印シ此ノ中ニ記號ヲ記入シ外ニ順位番號ヲ鉛筆ニテ記入シ
- 英 一 番 紫色ニテ甲九〇ノ印ヲ押捺ス
- 八 九 番 紫ニテ英一ノ印ヲ押捺シ黒字ヲ以テ工場名及記號俵ノ順位ヲ示ス
- 片 倉 紫ニテ〇ヲ印シ其ノ中ニ俵ノ順位ヲ赤及青鉛筆ニテ記入外ニ記號ヲ附
ス
- 紫ニテ⊕ノ印ヲ押捺シ墨ニテ記號番號ヲ記シ順位番ハ赤字ニテ附ス

右ノ如ク請求者特異ノ目標ヲ生絲ノ外裝ニ附スルヲ以テ其ノ生絲ハ何々請求者ヨリノ請求品ナルコトヲ容易ニ判別シ得テ札打其ノ他ノ作業ニ便ナリトス

第九節 生絲ノ還付及料絲引渡

檢定證及騰本ハ總テ受付掛ヲ經テ請求者ニ交付スルモノトス受付掛ハ檢定證掛ヨリ送付ヲ受ケタルトキハ員數、官印、請求者名等詳細ニ調査シ請求書(又ハ依頼書)ト照合シタル後請求者ニ交付スルモノニシテ交付ニ際シテハ檢定證交付簿ニ請求者ヲシテ生絲ノ製産者名及日時ヲ記入セシム斯ク爲ス所以ハ後日問題ノ起リシ場合ニ檢定證交付ノ日並ニ時間ヲ明カナラシム證據タラシメンガ爲メナリ

供試料絲ハ絲捻係ニ於テ捻造トナシ之ヲ紙袋ニ入レ乾燥番號記入ノ上一荷口毎ニ取纏メ廻送シ來ルヲ以テ檢査臺帳ニヨリ取引先、工場名、檢査月日、請求者名等ヲ記入シタル「レツテル」ヲ袋ノ表面ニ貼附シ而シテ生絲ヲ賣込ミタル問屋ヨリ預證ヲ提出スルトキハ生絲ニ貼附シタル「レツテル」ニ依リ現品ト預證トヲ照合シテ之ト引替ヘニ生絲ノ還付ヲナスモノトス

檢査終了後生絲ノ引渡ヲナスニ際シテハ積載員數及檢査濟證票ノ有無等ヲ調査スルコト勿論ナリト雖モ運搬上ニ對シテモ注意ヲナシ搬出後過誤ヲ來ラシムル憂ナカラシム

トヲ期スベシ、預證ハ直ニ渡濟ノ印ヲ押捺シ毎日番號順ニ整理スルモノトス

現今輸出商ノ生絲ヲ運搬スルモノハ吉田屋、柏木、勝又、大平運輸株式會社ノ四ヶ所ニシテ各荷扱上ノ協定ヲナシ其ノ所屬ヲ定メ自他相冒スコトナシ故ニ運搬夫ハ其ノ所定以外ノ商館、輸出店ノ生絲ヲ輸送スルコト能ハザルヲ以テ生絲引渡上過誤ヲ來スコト殆ンドナシ

運搬會社ノ協定、各問屋ヨリ輸出商館ヘ引込ミ又ハ引出ス所ノ生絲ノ運搬ヲ大体左ノ如ク協定シテ之ガ取扱ヲナス

運搬會社名

取扱フベキ得意先商館

吉田屋

九、

九四

柏木

(H)

(米)

(M)

(S)

(VSB)

大平運輸會社

(A)

(カ)

(米)

甲九〇

二五四

一六四

(十)

(取)

九五

七七

七六

四三

勝

又

英一

(R)

(OK)

但シ日米ハ一日ヨリ十五日迄ハ大平運輸ニシテ十六日ヨリ月末迄ハ柏木ニテ取扱フ

尙之等運搬會社ハ自己ノ有スル荷車ヲ區別センガ爲メニ左記ノ如ク車輪ノ蜘蛛手ヲ色

別ニ塗り分ケタリ

吉	田	屋	車ノ中心ヨリ	赤、白
柏	木	同	同	白、赤、白
大	平	運	同	青、白、青
勝	又	同	同	赤、綠

第十節 受付時間ト検査ノ締切

検査請求書依頼書其ノ他検査ニ關スル書類及生絲受付ノ時間ハ午前八時ヨリ午後三時迄トシ土曜日ニアリテハ正午迄トス出張検査ニアリテハ請求書及料絲ノ送付時間ヲ見込ミ締切ヲ三十分間猶豫スルコトアリ

出張所ノ検査ニシテ三時半迄ニ請求書及供試料絲ノ本所ニ到着セザルモノハ當日ニ總全量ノ秤定ヲ終了スルト雖モ之ハ翌日廻シノ取扱ヒヲナス此場合ニ於テハ俵ニ假封印ヲナスモノトス

検査受付件數ハ毎日受付掛ニ於テ之ヲ調査シ締切通知簿ニ本所並ニ出張所件數、謄本件數等ヲ區別シテ記載シ檢定證掛ヲ經由シ主任技師、部長ヲ經テ調査部ニ通知スルモノトス

第十一節 受檢生絲ノ監理

検査ニ提出シタル生絲ガ不可抗力ニヨリ受ケタル損害ハ本所ニ於テ其ノ責ニ任ゼズト雖モ監理ノ不行届ヨリ起ル損害ニ對シテハ之ヲ免カル、能ハザルヲ以テ検査生絲ノ監理ハ最モ肝要ナレバ極メテ用意周到ナラザルベカラズ故ニ左ニ主ナル項目ヲ列舉シ之ガ注意ヲ怠ラサランコトヲ期ス

- 一、生絲ニハ直接日光ヲ受ケシメザル様努ムルコト
- 一、風雨ノ際ハ窓及出入口ノ硝子戸ヲ閉ジ直接風濕ヲ受ケシメザル様努ムルコト
- 一、猥リニ外來者ヲ生絲ノ置場ニ接近セシメザルコト
- 一、生絲ノ排列所又ハ取扱場所ニ於テ喫煙セシメザルコト
- 一、生絲ヲ汚損セシムル恐レアルモノハ生絲ノ置場ニ接近セシメザルコト

第二章 大天掛

大天掛ニ於テハ受付掛ヨリ生絲ノ引繼ヲ受ケタルトキハ番號順ニ拔絲調査ヲ行ヒ供試料絲ノ採取、總全量秤定、風袋量ノ調査ヲナシタル上生絲ハ舊ノ如ク整理袋詰ノ後秤量ノ再調ヲ行ヒ受付掛ヘ引繼グ迄ノ作業ヲナス而シテ其ノ順序ヲ詳述スレバ左ノ如シ

第一節 豫備検査

已定ノ手續ヲ經テ引繼テ受ケタル生絲ニシテ往々外装ノ金巾袋ニ破損又ハ油浸ミ或ハ泥雨ニ浸染セルモノ有ルヲ以テ検査前内部ノ生絲ニ損傷ナキヤヲ審査シ適當ノ處理ヲナスモノトス又一梱中括數ノ定員ヲ充タサルカ或ハ汚染切斷ノ生絲ヲ發見シタル場合ニアリテハ其ノ事實ヲ請求者ニ示シ該生絲ハ取替ヘ又ハ除去返還セシムルモノトス衡器ハ凡テ検査着手前其ノ秤点ヲ調べ感量ヲ完全ニ表現シ得ル様調節スルモノトス

第二節 拔絲調査

輸出生絲検査法ニ依ル正量検査ヲ爲ス場合ニ於テハ荷口毎ニ供試料絲採取前拔絲本數ヲ調査スベシ(生絲検査所處務細則第十條)拔絲トハ請求者側ニ於テ品位検査料絲トシテ千斤ニ付五十總其ノ他總荷拜見ノ際色澤不同、切レ絲、荷擦レ、底擦レ、汚レ絲等トシテ拔キ取ラレタルモノニシテ一荷口中平均七八十本位有ルモノナルモ其ノ正確ヲ得ル事難シ殊ニ破談引キ戻シノ厄ニ會ヒタルモノハ拔絲本數ハ普通ノ數倍ニ上ルコトアリ

之ヲ調査スルニハ受付掛ニ於テ札打終了セルモノヲ一荷口毎ニ絲臺ヲ竝ブルモ作業ニ

差支ヘナキ範圍ニ基盤目ニ竝ベテ其ノ番號順ニ着手スルモノニシテ先ヅ打札ヲ取り紙札ノ一端ニ記載セル番號ト札番トヲ對照シタル後之ヲ絲臺ノ側面ニアル定位位置ニ挿シ込ミ其ノ俵ノ總括數ヲ調べ次ニ袋ノ口ヲ解キテ順次上部ノ括ヨリ包紙ノ一端ヲ開キテ數フルモノニシテ每括定數(三十本)ニ充タザルモノハ其ノ不足本數ヲ拔絲傳票ノ相當欄ニ記入シ調査濟ノモノヨリ順次絲臺ニ柁ニ五括ヅ、載セ行キ最後ニ端數ヲ生ズル時ハ平ニシテ一見括數ノ調査ニ便トナス、斯クシテ載セ終ルヤ金巾袋ハ四ツ折トナシ絲臺ノ側面打札ノ挿シ込ミアル方ニ記載番號ノ見ユル様載スベシ又受付掛ニ於テ赤札ヲ荷口ノ上部ニ載スルコトアリ此場合ハ請求者ノ申告拔絲本數二百本以上ノ多キモノナレバ調査員ハ一層ノ注意ヲ要スルモノナリ猶絲臺ハ調査ノ際包紙ヲ開キタル方ヲ正面トシ打札挿シ込ミノ場所ガ左方ニ在ル様置クモノトス

拔絲傳票調査係ハ各調査員ノ調査記入セル傳票ヲ集メ各荷口ノ拔絲數ヲ計算シ拔絲通知票ニ記入シ生絲調査室ニ送ルモノトス

拔絲調査再調、各調査員ハ充分注意シツ、アレドモ尙萬全ヲ期スル爲メ時々再調ヲ行ヒ先ニ調査セル本數ノ正否ヲ確ムルモノトス

第三節 供試料絲ノ採取

二二

拔絲調査ノ終了ニ從ヒ供試料絲ヲ採取ス料絲ノ採取ニ當リテハ受付掛ニ於テ検査ノ順位ヲ定メ受付番號札(アルミニウム製)及水分番號札(木製)ヲ其レトシ打札スルト同時ニ洋俵ノ一端ニ結附セル札紙ニ其ノ番號ヲ記載セルヲ以テ料絲採取ノ際ハ金巾袋ノ札紙ニ記載セル番號ト木札及料絲入函ノ番號トヲ對照シ確メテ後料絲採取ニ着手スルモノトス斯クシテ採取シ終レバ木札ハ料絲函ノA區ニ納メ料絲ノ採取済ミナルコトヲ明ニスルモノトス

料絲ハ一俵(又ハ相)ノ生絲ニ含有スル水分ヲ檢定スル爲メニ採取スル代表物ナルヲ以テ俵ノ各層ヨリ最モ公平ニ採取セザルベカラズ故ニ一括中ヨリ二本拔ラセザルノミナラズ其ノ位置モ括ノ内側ニノミ偏スルコトナク外側ヨリモ適宜ニ採取ルモノトス拔絲係ハ採取後其ノ拔取リタル生絲ノ検査番號ト之ヲ入レタル料絲入函ノ番號ト俵上ニアル水分番號ト紙札ニ記載セル番號トヲ引合ハセ一致セルヤ否ヤヲ檢證スルモノトス斯クシテ拔取タル生絲(八本)ハ之ヲ二區(四本宛)ニ分チ料絲函ニ納メ原量秤定係ニ送付ス、二區ニ分ツ際可成其ノ重量ヲ均齊ナラシムル様努ムベシ然ラザレバ重量ノ不同ヨリシテ水分ノ差ヲ大ナラシムルコトアルナリ

C及増乾料絲ノ拔取、A B二區ノ含有水分率不齊ニシテ兩者ノ百分比ニ於テ〇、五以

上ノ差アリタルトキハ更ニ一區分(四本)ヲ其ノ番號ニ該當スル俵ノ中ヨリ拔取リ之ヲ第三區(C)ノ料絲トナス又一荷口中各俵ノ水分率中其ノ最モ多キモノト最モ少ナキモノトノ差百分比ニ於テ一、以上ナルトキハ更ニ其ノ荷口ノ十分ノ一(端數ハ之ヲ切上グ)ニ相當スル他ノ俵ノ水分率ヲ求メ之ヲ加算平均シタルモノヲ以テ其ノ荷口ノ水分率トナスヲ以テ此場合ハ更ニ増乾料絲ヲ他ノ俵ヨリ八本拔取ルモノトス之等ノ場合ニアリテハ乾燥掛ヨリ直接大天掛ニ其ノ旨通知シ來ルヲ以テ右ニ該當スル生絲ノ荷口ヲ調査シ番號ヲ確メ採取ス斯クシテ拔取タル料絲ハ既定ノ料絲函ニ納メ中天掛ニ廻送シ猶此旨受付掛ヘ通知スルモノトス

正量検査ヲ施スベキ生絲ニシテ已ニ拔絲調査及乾燥料絲採取ノ終了シタルモノハ之ヲ打札順ニ臺秤ノ附近ニ配列セシム又相ニアリテハ繩ヲ解キ其ノ生絲ヲ相ヨリ取出シ絲臺ニ載セ打札ノ順序ニ臺秤ノ側面ニ配列セシム尙空箱ハ荷解場ノ床上ニ箱ノ蓋面ニ白墨ニテ記載セル検査番號順ニ配列スルモノトス

第四節 總全量秤定

一荷口全部ノ生絲ニ對シ各俵毎ニ其ノ全量ヲ秤定スルモノナリ

(輸出生絲検査法施行細則第六條ノ一)

二三

總全量トハ生絲、包紙及括絲其ノ他ノ附屬物ヲ含有スル重量ニシテ俗ニ之ヲ皆掛量ト稱ス例ヘバ俵裝生絲ニアリテハ金巾袋、包紙、商標、角紙、括絲等捆裝ニアリテハ包紙、商標、角紙、括絲等ヲ含ムモノナリ

(イ) 衡器 總全量秤定ニ使用スル衡器ハ地中臺秤ニシテ秤量九十斤、感量十瓦(即チ九十分ノ一)ナリトス

豫秤用臺秤ニハ桿ノ右端ニ絲臺及(アルミニウム)札ノ目方即チ二十二瓦六十瓦ニ相當スル位置ニ錘ヲ取り付ケ之ト平衡ヲ保チ再調用臺秤ニハ十八瓦ニ相當スル位置ニ錘ヲ固定シテ再調用車トノ平衡ヲ保ツ故ニ絲臺及再調用車ノ重量ハ秤量目ニ表ハレザルヲ以テ秤量者ハ桿ニ取付ケラレタル「オクリ錘」ヲ直点ト一致スルところ迄動カシ其ノ表ハレタル數字ヲ讀メバ直ニ生絲ノ重量ヲ知り得ルモノナリ

(ロ) 秤定ノ方法 先ヅ臺秤ノ附近ニ配列セシメタル生絲ハ受付番號ノ順序ニヨリ之ヲ臺秤ニ載セ檢量ヲナスモノナリト雖モ之ニ先ダテ助手ヲシテ荷口ノ替リ、番號、料絲番號及括數等ヲ讀ミ上ゲシメ秤量ヲナシ傳票ニ其ノ番號括數及量目ヲ記入スルモノニシテ此際同一荷口中間括數ナルニモ拘ラズ捆ニ於テハ一疋俵ニアリテハ二疋以上ノ差異アリタルトキ又ハ其ノ他ニ疑問ノ生ジタル場合ニ於テハ衡器ノ狂差其ノ他故障ノ有無ヲ調査シ之レニ「正」又ハ「〇」符號ヲ傳票欄外ニ附記スルモノトス而シ

テ傳票ハ正副二通ヲ作製シ正傳票ハ大天計算係ニ副傳票ハ再調係ニ送付ス、大天計算係ハ其ノ荷口ノ總全量ノ合計ヲナシ相當欄ニ之ヲ記入シタル上中天掛ニ廻送スルモノトス斯クシテ秤定シタル生絲ハ之レヲ受方ニ依リテ秤上ヨリ卸シ絲臺曳方ヲシテ一定ノ順序ニ之レヲ配列シ以テ整理ノ便ヲ計ラシム

(ハ) 秤量上ノ要点 總全量ハ水分率ト相俵ツテ正量算定ノ基本量目ナルヲ以テ之レヲ秤量スルニ當リテハ最モ注意ヲ拂ハザルベカラズ而シテ其ノ要点ヲ擧グレバ左ノ如シ

- 一、秤量ノ際ハ秤ノ二要点(重點)ノ及及受ヲ損傷セシメザル様之ヲ大切ニ取扱フベキコト
- 二、可檢物ハ必ず他物ニ接觸セシメザル様注意スルコト
- 三、量目ヲ記載スルニ當リ往々桿ノ目盛又ハ分銅ノ見誤リヲナシ或ハ其ノ數字ヲ誤記スルコトアリ
- 例ヘバ 6103ヲ6013. 6006ヲ6060. 又ハ6100ヲ6200ノ如ク過誤ヲ來スコトアリ注意ヲ要ス
- 四、過乾甚濕ノ日ニ在リテハ其ノ乾濕ガ直ニ生絲ノ重量ニ影響ヲ來スベキヲ以テ力メテ其ノ襲來ヲ防ギ且ツ秤量ハ迅速ニ之ヲ行フコト

總全量ト括數

元來一俵ノ生絲ハ六十基瓦(和百斤)ヲ標準トシテ千斤乃至二千斤或ハ夫レ以上ノ數

量ヲ一荷口トナスコトアリト雖モ請求者側ニ於テ前述ノ如ク品位検査及總荷拜見ノ際相當ノ拔絲アリ其ノタメ一括量ハ常ニ一定セザルヲ以テ各俵毎ニ其ノ重量ヲ異ニシ從ツテ其ノ括數モ異ニスルモノナリ、サレバ其ノ荷口ニヨリ一俵ノ括數少ナキハ二十五括ノモノアリ又多キハ三十四五括ニ達スルモノアレドモ大体ニ於テ二十八括、二十九括乃至三十括詰ニ屬スルモノ最モ多シ玉絲ノ如キハ四十四、五括ヲ普通トス梱裝ニ在リテハ十五括、十六括、二十括詰有リ其量不同ナリト雖モ一括ノ量目ニハ大差ナク約二疋内外トス

各種生絲ノ内容量ヲ比較スルコト左表ノ如シ

玉絲	相			俵		
	範圍	平均	總全量	範圍	平均	總全量
器械生絲	一五 一六 二〇	一六	三一 三三 四〇	二五乃至三五	二八乃至二九	六〇
玉絲	二四	二四	三四	四一乃至四八	四三乃至四四	六二

第五節 風 袋

總全量秤定後直チニ風袋ヲ採取ス、風袋トハ括絲、胴紙、商標、包紙、角紙及金巾袋等ヲ云フ

(イ) 風袋ノ採取方法

風袋ハ概ネ一定セリト雖モ束裝方法ノ異ナルニ從ヒ多少ノ差異アルモノナレバ今左ニ其ノ取扱方法ノ梗概ヲ列記セン

器械生絲

包紙ハ一枚ヲ用ウルアリ或ハ之レニ雁皮紙ヲ重ネタルモノアリ地質厚薄輕重不同アリテ一様ナラズト雖モ一荷口ノ包紙ハ概ネ一定セリ偶々不同ノ包紙ヲ混入スル場合ニアリテハ其ノ實狀ニヨリテ適宜之ヲ撰定シ風袋ニ充ツ、包紙ハ一枚平均十五瓦内外ナリ括絲ニ細太アリ有燃無燃アリ單絲複絲等ノ種別アリ其ノ量一定セザレドモ甚シキ差異ナシ又之レヲ施シタル位置ハ三ヶ所ナレバ同一括ヨリ悉ク之レヲ採レバ全ク其ノ括ヲ崩壞セシムルコト、ナルヲ以テ三括中ヨリ中央部ノ括絲ヲ採リテ一括分トシテ之ヲ検査ス而シテ其ノ重量十五瓦内外ノモノ最モ多シ

商標 商標ハ一枚ヲ取リテ其ノ風袋トナス其ノ量一瓦内外ヲ普通トス
角紙 角紙ニモ厚薄大小輕重等種々アリ其ノ員數ハ二枚、四枚、八枚、十二枚等ニシ

テ之等ハ其ノ標準重量ヲ求メテ風袋中ニ加算スルモノトス

ロ 風袋ノ計算法

括絲、商標、包紙其ノ他ノ附屬物ハ各俵又ハ各梱ヨリ一括分ヲ採リ之ヲ秤量シテ各俵又ハ各梱ノ括數ヲ乘ジ尙俵裝ニアリテハ之ニ各俵毎ニ金巾袋ヲ秤量シ加算シテ風袋量ヲ算定ス但シ一荷口ニ付行フ検査ニアリテハ括絲、商標、包紙其ノ他ノ附屬物ヲ其ノ荷口中ノ五俵又ハ五梱ヨリ各俵又ハ各梱毎ニ一括分ヲ採リ之ヲ合同シテ秤量シ其ノ平均ニ依リ計算ス風袋ハ荷口ノ變更スルニ從ヒ秤量ヲナスモノニシテ風袋ヲ採取シタルトキハ各俵(又ハ梱)毎ニ検査番號ヲ附シ其ノ荷口ノ更新スル毎ニ符合「✓」ヲ附シ更ニ其ノ商標又ハ表裝ヲ檢シタル後一荷口ノ風袋ヲ纏メ風袋秤量方ニ送達ス、尙角紙アルモノハ其ノ枚數ヲ檢シ風袋ノ表面ニ左記符號ヲ記入スベシ、但シ四枚ニシテ二畚以下ノモノハ加算セズ

角紙ニ對スル符號△四枚附、×八枚附、○十二枚附、然シテ一枚又ハ二枚附ノ角紙ハ之ヲ加算セズト雖モ其ノ形大ニシテ一枚ノ重量一デシ以上ノモノハ之ヲ算入スルモノトス

三 遠玉絲

包紙、商標、胴紙等器械生絲ニ做フ胴紙量ハ凡十一瓦ナリトス括絲ハ五ヶ所ヲ結フルヲ以テ三括中ヨリ其ノ中央及左右兩端ヲ採ルモノトス

上 芴玉絲

上芴玉絲ハ包紙ナク括絲ハ器械生絲ト同ジク三ヶ所ナレバ之ニ做フ已ニ述ベタルガ如ク生絲ニ附屬スル包紙括絲等ノ風袋量ハ輕重不同ナルヲ以テ之ヲ採取スルニハ其ノ中庸ヲ求ムルコト必要ナリトス

例ヘバ同一製絲ニシテ其ノ商標ヲ同ウスト雖モ風袋量ノ關係ヨリ之ヲ比較シ異種ノ感アルモノ尠ナカラズ之ニ反シ生絲ノ階級ニヨリ其ノ商標ヲ異ニスルモ風袋量ニ至リテハ同一物ト見做サル、モノアリ

又角紙ノ如キニ至リテハ四枚或ハ八枚乃至十二枚等ト時ニ變更スルコトアリ且ツ大小厚薄ヲ異ニスルモノアリ故ニ風袋ノ撰定採取ニハ深ク注意ヲ拂フ可キモノトス

ハ 風袋ノ秤定

風袋ヲ秤量スベキ衡器ハ自動秤ニシテ秤量五百瓦感量一瓦ナリトス、其ノ秤量方法ハ先ヅ風袋採方ヨリ廻送シ來レル五括分ノ風袋即チ包紙、括絲、商標等ヲ一荷口毎ニ之ヲ秤量シテ其ノ重量ヲ傳票ニ記入シ次ニ一括分ノ平均量目ヲ計算シテ更ニ傳票ニ記載スルモノトス

同一工場ノ製品ハ其ノ風袋量殆ンド均齊スト雖モ往々其ノ多寡ノ差著大ナルモノアリ斯ノ如キハ各種ノ風袋ヲ類別秤量シテ傳票相當欄ニ記入スベシ、風袋秤量中往々包紙又ハ括絲等ノ一端皿外ニ垂下シ他物ニ接觸スルコトアリ又紙絲ノ類或ハ金巾袋ニ特別

記號ヲ附シテ包紙ニハ「✓」金巾袋ニハ「=」等検査品ノ變換ヲ示スト雖モ往々兩者一致セザルコトアルヲ以テ其ノ記號ニ注意スベキナリ角紙アルモノハ其ノ枚數ニ應ジ四枚ハ二畝八枚ハ五畝十二枚ハ一瓦トシ又特殊ノモノハ其ノ實量ヲ調査シテ之ヲ風袋量中ニ加算スルモノトス

上記諸項目ヲ傳票ニ記入シ終レバ更ニ調査ヲ行ヒ直ニ中天掛ニ送付スルモノトス

斯クテ秤定シ終レバ風袋物ハ之ヲ採取シタル生絲ニ配附シ整理ノ便ニ供ス

生絲ノ外装ヲナス金巾袋ハ運搬中又ハ検査中往々破損スルコトアリ斯ノ如キ場合ハ之ヲ補綴スルコトナク新品ト取替ヲナサシムルモノトス故ニ其ノ豫備トシテ請求者毎ニ新シキ袋十枚位宛ヲ提出セシメ置キ破損ノ場合ニ於テ同容同大ノモノヲ撰出スル便ヲ得テ検査ノ迅速ヲ助ク

第六節 生絲ノ整理

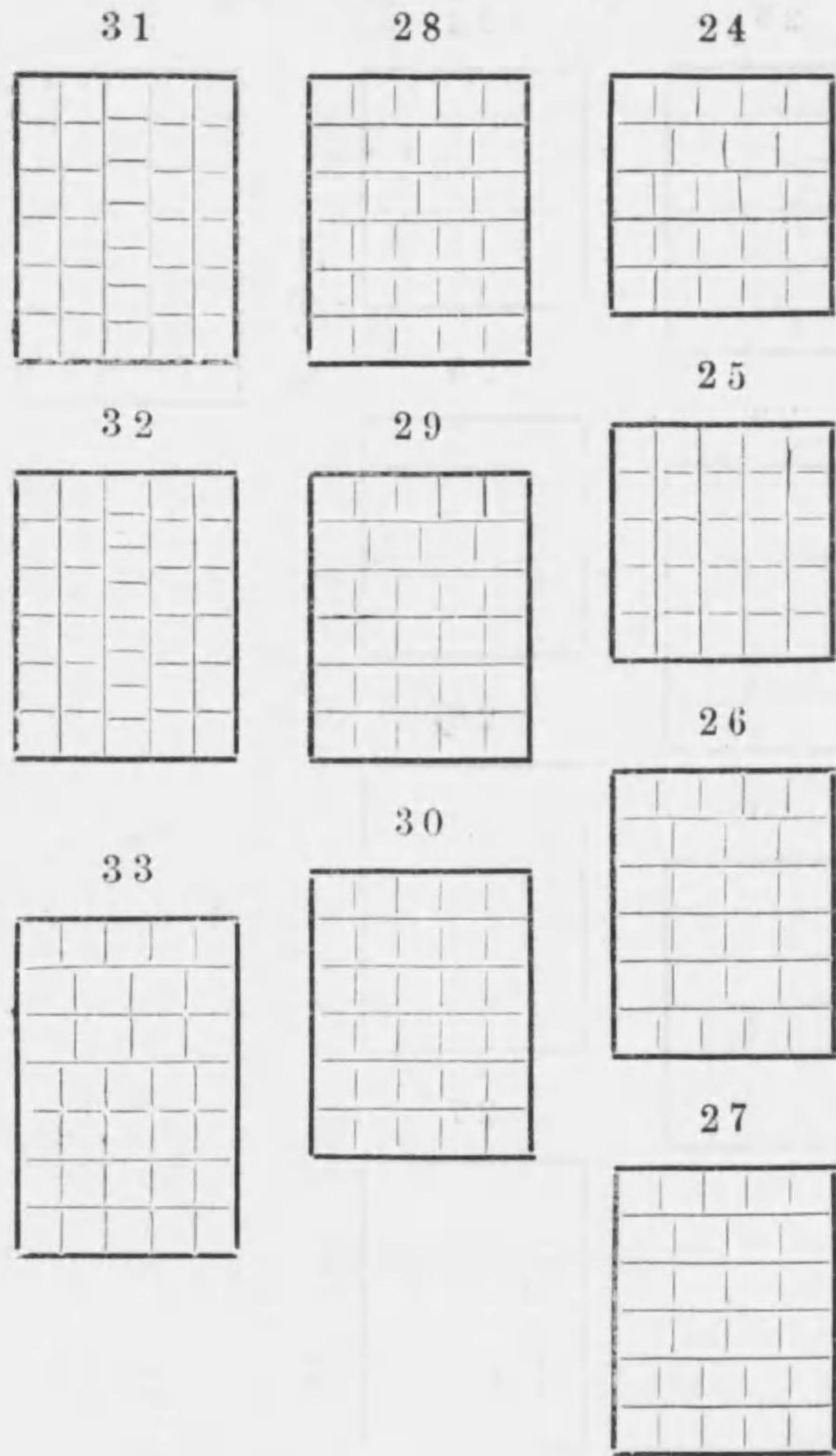
生絲ガ總全量秤定終了シテ適宜ノ地位ニ受付番號順ニ配列サレタル時ハ先ヅ配附セラレタル風袋番號トヲ照合シタル後整理臺上ニ於テ商標括絲ヲ舊ニ復セシム殊ニ括絲ノ結び方ニ於テモ右結びノモノハ右ニ左結びノモノハ左ニ結び其ノ末端ノ如キモ長カラズ短カカラズ總テ元通りニセシメテ體裁ヲ害ハザル様注意スベシ

包紙ハ紙質強靱ナリト雖モ本所へ提出サル、マデノ運搬中破損スルモノアリ或ハ拔絲調査ニ於テ袖紙ヲ落シ又ハ破損ヲ生ズルコトアリ故ニ其ノ甚シキモノハ豫メ各請求者ヨリ豫備品ヲ提出セシメ置キタル新シキ包紙ニ丁寧ニ包ミ替へ袋詰後生絲ノ金巾袋ヲ透シテ外部ニ見エザル様注意スベキナリ

此整理ハ本掛ニ於ケル作業中最モ多クノ時間ヲ要シ且ツ大切ナル作業ナレバ各自緊張シテ其ノ業ニ當ルヲ要ス然ラザレバ常ニ其ノ時間ヲ浪費スルノミナラズ取扱粗暴ニ流レ本所ノ信用ニモ影響ヲ及ボスモノナレバ最モ注意ヲ要スベキモノナリトス而シテ從來ノ經驗ニヨレバ接近セル甲乙兩生絲ノ間ニ商標ノ異ナル括ヲ誤リテ混合サル、事アレバ整理中ハ絶エズ商標ニモ注意ヲ拂ヒ萬一異ナル商標ノ括ヲ發見セシ時ハ直ニ主任者ニ申告スベキモノトス又油浸ミ汚レ絲切レ絲等ニシテ豫備検査ノ際ニ發見サレザルモノアリ、サレバ之等ニ對シテモ特ニ注意ヲ拂ヒ發見シタル時ハ直ニ原因ヲ探索シ請求者ニ知ラシメ適當ノ處置ヲナシ除去シタルモノハ受付掛ノ手ヲ經テ請求者ニ返却スルト同時ニ其ノ重量ヲ總全量ヨリ控除スベキ手續ヲ取ルモノトス

斯クテ検査生絲ハ本所ニ於ケル整理ノマ、大部分海外ニ輸出サル、モノニシテ從テ整理ノ巧拙ハ勢生絲ニ關係ヲ及ボシ爲ニ聲價ニ關スル事ナキニシモアラズサレバ整理ニ當ルモノハ大ニ上記ノ諸項目ニ充分ナル注意ヲ拂決シテ粗雜ナル取扱ヒヲナスベカラズ

袋詰様式

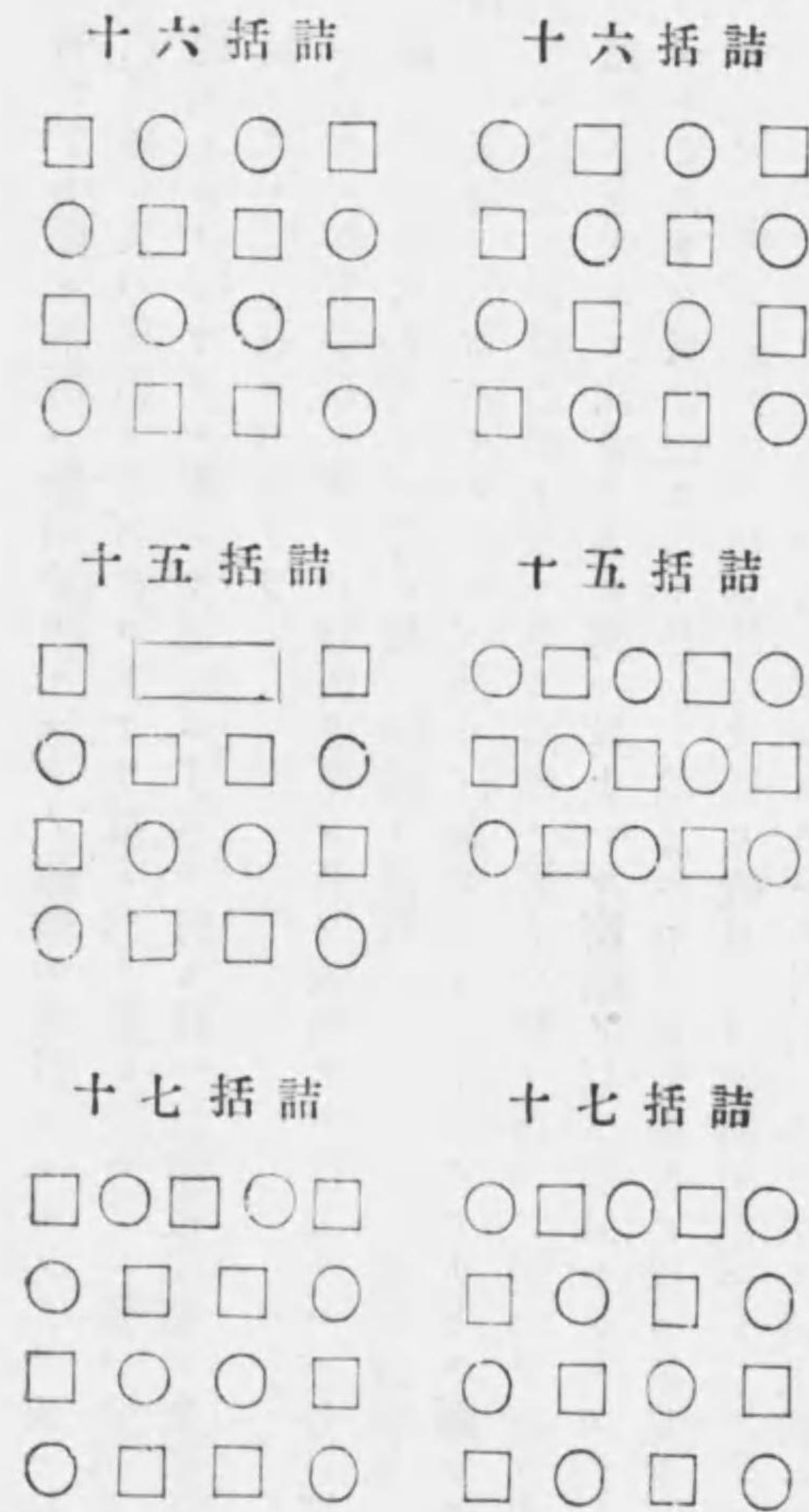


袋詰、

本所、三井、日本生絲、日本綿花ハ中平ナレドモ其ノ他ハ上平詰ナリ

本所式

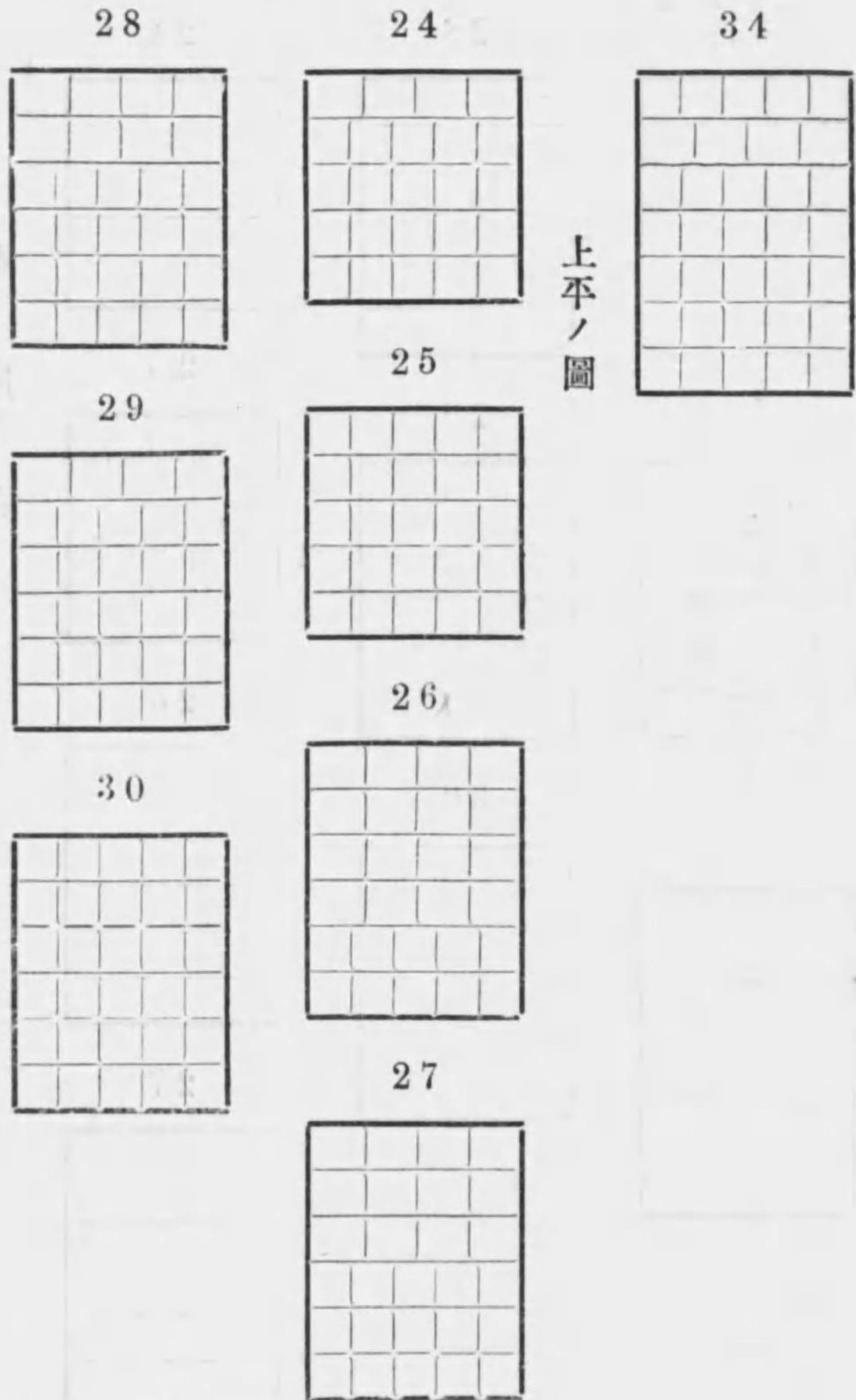
梱詰様式 (□括ノ尻) (○括ノ頭)



梱詰及袋詰

總全量及風袋量ヲ秤定シタルモノハ直チニ風袋ヲ復舊シタル後梱詰或ハ袋詰ニ着手スルモノトス此場合ニアリテハ絲臺ニ挿シ込ミアル受付番號ト金巾袋ノ札紙ニ記入シタル(梱ニアリテハ其蓋ニ記載セル)番號ヲ對照シ梱詰又ハ袋詰ヲナス袋詰ハ所定方法ノ外請求者ノ希望ヲ容ル、コトアリ其ノ雛形ハ次ノ如シ

上平ノ圖



原輸出部ニアリテハ荷口前後ノ俵ニ限リ上平トスル差アルノミ
 要スルニ請求者ニヨツテ袋詰ノ方法多少異ナル所アリト雖モ本所ニ於テ検査終了シタ
 ルモノハ請求者ニ於テ特ニ申出ナキ限り本所式ニ袋詰シテ返却スルモノトス
 生絲ノ梱又ハ袋詰ヲナスニ當リ金巾袋ノ配附ニ過誤ナカラシメ或ハ他ノ生絲ノ混入ヲ
 防グコトニ注意ヲ加フルコト必要ナリ斯ク詰メ終レバ絲臺ニ挿シ込ミアル打札ヲ其ノ
 俵及ビ梱ノ上ニ載スベシ

第七節 袋詰後ノ再調

三六

再調ノ目的

總全量ノ秤定後袋詰ヲ終ル迄ニ往々他ノ生絲ヲ混入シ又ハ打札ノ順位ガ轉倒シ金巾袋ノ配附ヲ誤ル等ノコトアルノミナラズ同一總全量ノ二俵以上連續シ或ハ總全量ノ近似スルモ其ノ括數ヲ異ニスルモノアリ或ハ括數ヲ同ウスト雖モ總全量ノ差額著シキモノアルヲ以テ之等相違ノ点ヲ確メ誤リタルトキハ之ヲ訂正セシメンガ爲メニ總テ袋詰整理後再調ヲ行ヒ量數ト手續ニ過誤ナキヲ期スルモノトス

袋詰過誤ノ原因

- 一、括數ノ過誤 括數ノ勘定ヲ過リタルカ、傳票記入方ノ括數ヲ誤記シタルカ又ハ袋詰ニ當リ隣接セル俵ノ括ヲ混入シタルカニアリ
- 一、袋詰ノ過誤 金巾袋ノ配附ヲ誤リタル結果ニシテ袋詰方ノ調査ヲ逸シタルモノナリトス
- 一、打札ノ過誤 拔絲係、絲臺曳方、袋詰方又ハ再調助手等ノ誤載ニ依ル再調量過誤ノ原因
- 一、袋詰ヲ誤リタルトキ
- 一、一定量外ノ運搬車ヲ用キタルトキ

- 一、俵若クハ車ノ秤盤外ニアリシトキ
- 一、俵上ニ打札ヲ載セタルトキ
- 一、豫秤後切レ絲及汚染絲等ヲ抜き取りタルモ其ノ重量ノ訂正ヲ怠リシトキ
- 一、衡器ニ狂差ヲ生ジタルトキ
- 一、番號札ヲ取り違ヘタルトキ
- 一、可檢生絲ノ番號ヲ誤リタルトキ

再調

袋詰後ノ生絲ヲ再調セントスルニハ之ヲ一定ノ運搬車ト共ニ再調用臺秤上ニ載セ其ノ打札ノ番號及括數等助手ヲシテ口上セシメ之ヲ總全量副傳票ト對照シテ正確ナルトキハ再調濟ノ記號ヲ附シテ次ノ再調ニ移ル而シテ受付ヨリ再調迄ニハ相當ノ時間ヲ要スルモノニシテ此間ニハ前記幾多ノ行程ヲ經過シ來ルヲ以テ總全量ハ豫秤再調其ノ量數ヲ異ニスルモノアリ即チ氣候ノ乾濕金巾袋ノ糊量剝落又ハ包紙及金巾袋ノ取替等ニヨリテ多少ノ増減量ハ免ル、コト能ハズ其ノ量ハ約二三十瓦前後アルモノトス故ニ再調ニ當リテ豫秤ニ比較シテ僅少ノ差アル場合ニハ之ヲ誤謬ナキモノト認メ五十瓦以上ノ開差ヲ生ジタル場合ニハ豫秤衡器ニテ更ニ秤量セシメ其ノ過誤ヲ認メタルトキハ之ヲ訂正スルモノトス猶傳票中「Q」ノ符號アリタルモノニ對シテハ特ニ注意ヲ拂ヒ過誤ナキ場合ハ改メテ「正」ノ通知ヲ検査表係ニ送付スルモノトス

三七

斯ノ如クシテ再調ヲ通過シタルモノハ一定ノ位置ニ之ヲ配列シテ俵上ニ打札黒字ノ面ヲ上向ニシテ置クベシ又其ノ過誤ヲ發見シタル場合ニアリテハ直チニ正數誤數ヲ訂正通知簿ニ併記シ中天掛ニ示シ副傳票ト共ニ承認ノ捺印ヲ求ムルコト、ス
右ノ行程ヲ終レハ之ヲ受付掛ニ引渡スモノトス

第八節 生絲調査

検査ヲ請求セル生絲中往々其ノ請求品ト其ノ品種ヲ異ニスルモノヲ混入スルコトアリ甚ダシキハ全然異ナリタル荷口ヲ搬入スルコトアルヲ以テ之等ノ過誤ヲ防グガ爲メ各荷口ニ就キ生絲ノ束裝及ビ商標ノ調査ヲ行フ

生絲調査ノ方法

受付掛ニ於テ調製シ檢定證掛ニ送付スベキ検査臺帳ハ一旦生絲調査室ニ送ラル調査係ハ之ニ依リ生絲調査用紙ニ其ノ要項ヲ記入シ終レバ右臺帳ハ直チニ檢定證ニ送ル斯ク記入シタル調査用紙ニ依リ各荷口毎ニ生絲ノ束裝並ニ商標等ヲ調査シ請求シタル品名又ハ記號ト一致スルヤヲ確證スルモノトス
而シテ生絲ノ束裝調査ニ就テハ束裝調査臺帳ニ其ノ成績ヲ記入シ參考ニ供ス若シ調査中過誤アリタル場合ハ直チニ請求者ニ注意シ荷物ノ取替又ハ請求書ノ訂正ヲナサシム

生絲調査ノ必要ハ管ニ以上ノ場合ノミナラズ検査中若シモ他品ト混同シ又ハ其ノ順位ヲ過リ相混ジタル場合之ヲ鑑別訂正ヲ行フ爲メニ之ガ調査ノ成績ハ最モ必要ニシテ欠クベカラザルモノナリ

甲乙生絲ノ混同ヲ鑑別スルニ種々ノ方法アリト雖モ本係ハ之ガ調査上ノ規定ヲ定メ其レニ基キ各項ニ就キ調査シ成績ハ數字符號ヲ以テ臺帳ニ記載シ其ノ生絲ノ特長ヲ知ルニ努メ居レリ左ニ其ノ規定ヲ示サン

織 度

- | | | |
|----|-------------------|----|
| 1. | 十一デニール半未滿 | 細 |
| 2. | 十一デニール半以上十三デニール未滿 | 中細 |
| 3. | 十三デニール半以上十七デニール未滿 | 太 |
| 4. | 十七デニール以上 | 特太 |

括 造 法

1. 重ネ廻シ造リ(純)
2. 重ネ廻シ造リ(準) 括ノ表裏又ハ左右兩側ノ一部逆ナルモノ
3. 撮ミ造リ
4. 逆造リ 總テ重ネ廻シ造リト反對ナルモノ

括絲ノ位置

1. 適當ナルモノ
2. 第一括絲ト鬚尻ト離レ過ギタルモノ
3. 第一括絲ニテ鬚尻ヲ緊ムルモノ
4. 第三括絲ノ上部ニ寄り過ギタルモノ
5. 第三括絲ノ下部ニ寄り過ギタルモノ

猪口

1. 適當ナルモノ
2. 絲條亂レタルモノ
3. 猪口ニ力絲及緒留絲ノ現ハレタルモノ
4. 長キニ過ギタルモノ
5. 短カキニ過ギタルモノ
6. 放大ナルモノ
7. 引立鈎ヲ使用シタルモノ

鬚

1. 適當ナルモノ
2. 絲條紊レタルモノ

3. 鬚巾廣キニ過ギタルモノ
4. 鬚巾狭キニ過ギタルモノ
5. 猪口ニ接スル部分ニシテ中央部瘤狀ヲナセルモノ
6. 造リ方全ク不完全ナルモノ

胴

1. 適當ナルモノ
2. 絲條亂レタルモノ
3. 力絲緒留絲ノ表面ニ現ハレタルモノ

括尻

1. 適當ナルモノ
2. 絲條亂レタルモノ
3. 放大ナルモノ
4. 兩側面ノ現ハレタルモノ
5. 下撚不完全ナル爲メ尻部裂ケタルモノ

鬚外レ

1. 適當ニシテ鬚外レノナキモノ
2. 鬚外レノ憂アルモノ

3. 卷絲外レノアリタルモノ
撚

1. 適當ナルモノ

2. 下撚緩ニ過ギタルモノ

3. 上撚戻不適當ナルモノ

撚返法

1. 單揚

2. 重ネ揚

3. 合セ揚

絡交(網綾)

甲、整齊ナルモノ

乙、整齊状態甲ニ亞グモノ

丙、崩レタルモノ

丁、甚ダシク崩レタルモノ

以上ノ外網目程度ヲ示ス爲メ

1. 網目密ナルモノ

2. 網目中位ノモノ

3. 網目粗ナルモノ

平綾

1. 可良ナルモノ

2. 普通ナルモノ

3. 不良ナルモノ

糊着

1. 糊着殆ンドナキモノ

2. 糊着適度ノモノ

3. 糊着多キモノ

力絲

力絲ハ符合ニ依ラズ實際ヲ記ス

緒留

1. 共絲ノ割留

2. 共絲ノ輪留

ア 同上ヲ力絲ニテ編ミ込ミタルモノ

二ヶ所編ハ「ニア」トス

カ 力絲ニ緒留シタルモノ

メ 以上綿絲ヲ用キタルモノハ附記ス

手 觸

1. 優 良

2. 好 良

3. 普 通

4. 粗 硬

5. 軟 弱

抱 合

1. 優 良

2. 好 良

3. 普 通

4. 不 良

色 相(白繭絲)

1. 赤味淡キモノ

2. 赤味普通

3. 赤味濃キモノ

4. 稍黝味ヲ帶ブルモノ

5. 黝味ヲ帶ブルモノ

6. 黝味濃キモノ

7. 白味純白

8. 青味笹色

9. 黄味褐色

(黄繭絲)

1. 黄味淡キモノ

2. 黄味普通

3. 黄味濃キモノ

4. 稍黝味ヲ帶ブルモノ

5. 黝味ヲ帶ブルモノ

6. 黝味濃キモノ

7. 赤味(クリーム色)ヲ含ムモノ

8. 青味(笹色)ヲ含ムモノ

9. 金黄色ナルモノ

光 澤

1. 優 良

絲臺ハ其ノ重量二十二基瓦アリ相裝生絲ニモ洋俵ニ於テモ同一絲臺ヲ使用ス而シテ絲臺ハ毎日其ノ重量ヲ調査スベキモノニシテ若シ重量ニ過不足ヲ生ジタル時ハ裏面ノ調節函ノ蓋ヲ開キテ鉛ノ球ヲ増減シテ之ヲ調節ス絲臺ノ取手ハ薄キ板金ニ「ナット」ヲ以テ締メツケアルノミナルヲ以テ粗暴ノ取扱ヲナス時ハ破損シ易キガ故ニ丁寧ニ取扱ハザル可カラズ

(ニ) 再調車

再調車ハ其ノ重量十八斤ニシテ之モ絲臺ト同ジク生絲重量ニ直接關係アルモノナレバ日々其ノ量ヲ檢シ遺漏ナキ様ニスベシ

(ホ) 風袋整理臺

風袋整理臺ニ大小アリ大ナル方ハ括包ミノ作業ニハ便利多ケレドモ間隔少ナキ生絲ノ間ヲ整理ノ爲メ運搬スルニ不便ナリ小ナル方ハ此ノ不便ナキモ整理スベキ場所少ナキ嫌ヒアリサレド一般ニハ小ナル方使用サル
整理ニ當リテ往々整理臺ノ棚ニ整理スベキ生絲ヲ容レタルマ、置キ忘スル、コトアリ整理ノ都合上棚ニ收容シタル時ハ能ク注意スベキモノナリ

(ハ) 料絲運搬車

料絲運搬車ハ料絲入函ニ料絲ヲ入レタル時又ハ空キタル時ノ運搬ニ供シ函ノ損傷ヲ防グモノニシテ積載數二十ヲ越ユルベカラズ

(ト) 分銅公差表

分	銅	公差
1	デシ	0.4 <small>ミリ</small>
2		0.6
5		1.0
1	瓦	2.0
2		3.0
5		5.0
10		1.00 <small>センチ</small>
20		1.50
50		2.50
100		5.00
200		7.50
500		.1250 <small>瓦</small>
1.000	キロ	.2500
2.000		.3750
5.000		.6250
10.000		1.2500
20.000		1.8750
50.000		7.1750

第三章 中天掛

中天掛ニ於テハ大天掛ヨリ廻付セル乾燥料絲、練減検査及特別検査料絲ノ原量ヲ秤リ且ツ検査表ノ調製及風袋量ノ計算ヲナス作業ヲ行フモノトス、而シテ其ノ詳細ヲ記述スレバ下ノ如シ

第一節 原量ノ秤定

五〇

大天掛ヨリ送付セラレタル供試料絲ハA、B、各別ニ其ノ原量ヲ秤リ再調ヲ行ヒタル上乾燥掛ヘ送付スルモノナルガ原量ハ乾燥後ノ無水量ト相俟ツテ水分率ヲ確定ス可キ基礎ヲナス量目ナルヲ以テ之ガ秤量ヲナスニハ周到ナル注意ヲ要ス

原量秤ハ秤量一盃、感量五厘ニシテ五瓦以下ハ鎖式トナシ分銅ノ代ニ之ヲ應用セシム
(イ)秤ノ調整 感量ノ微細ナル天秤ハ僅カノ震動ノ爲メニモ狂差ヲ生ズルモノナルガ故常ニ調整ニ努メザル可カラズ調整ノ方法ハ先ヅ水準器ニヨリ秤ノ水平ヲ調ヘ然ル後左右ノ皿ニ原器(一盃ノ分銅)ヲ載セ指針ノ振り工合ニヨリ調子玉ヲ動かシテ之ヲ整フ

(ロ)秤量 大天掛ヨリ料絲ノ送付ヲ受ケタルトキハ直ニ豫秤ヲ行フ此場合ニハ料絲函ノ側面ニ記セル乾燥番號及料絲函内ノ木札番號トヲ引合ハセ然ル後八本ノ料絲ハ四本宛A、B、ニ區別シアルヲ以テ先ヅAヨリBノ順序ニ秤量シ其ノ量目ヲ傳票ニ記入ス函番號ト木札番號ト相違セル場合ハ直ニ大天掛ノ絲拔方ニ通告シ調査ノ上番號ヲ決定ス又A、B、ノ原量十五瓦以上ノ差アル時ハ之ヲ混合シ區分ヲ變更シタル後秤リ直シヲナスモノトス之ハA、B兩者ノ水分率ヲ可成均等ナラシメンガ爲メナリ斯クシテ秤量セルトキハ其ノ秤量ヲ傳票ニ記入シ生絲ニ添ヘ再調係ヘ廻付ス

(ハ)再調 再調係ハ傳票ノ番號ト函番號トヲ照合シタル上再秤ヲ行ヒ豫秤ノ量ニ相違ナキヤ否ヲ確ムルモノトス(再調秤ハ豫秤秤ト同様ナリ)再調ノ場合ニハBヨリAノ順序ヲ以テ秤量ヲナシ豫秤ノ場合ト反對ニ之ヲ行フ即チ豫秤者ト同様ノ誤謬ヲ來サザル爲メナリトス、而シテ再調ノ際二磅以上ノ差ヲ生ジタルトキハ豫秤者ニ返戻シテ再秤量ヲナサシム、斯ノ如クシテ原量ノ秤定ヲナシタルモノハ料絲函内ノ木札ヲ引上ゲ生絲ハ乾燥掛ニ傳票ハ原量記入係ヘ送付ス

(ニ)天秤ノ取扱 毎日検査終了セバ天秤ハ丁寧ニ塵埃ヲ拂ヒ掃除ヲ行ヒ分銅ハ紛失ノ有無ヲ調べタル上箱ニ納ム猶天秤ハ毎土曜日覆ヲ取り外シテ要部ノ掃除ヲナシ秤量及感量ノ調査ヲ行ヒ分銅ハ其ノ使用極メテ頻繁ナルヲ以テ自然ニ磨滅スルモノナレバ毎月一回之ヲ調査シ公差以上ノ差ヲ生ジタルモノハ之ヲ不合格品トシテ取替ヘセシム

第二節 検査表ノ調製

受付掛ヨリ廻付セル請求書ニヨリテ正量、原量、練減、特別検査等各々規定ノ用紙ニ其ノ請求書面ニ記載ノ要項ニ從ヒソレトゴム印ヲ用キテ押捺スルカ又記入ヲナシ検査表ヲ調製スルモノトス、検査表ニハ受付年月日、請求者、取引ノ相手方(問屋名ハ

商號ヲ記入スルモ差支ヘナシ) 產地(國名ニテ請求スルモノハ府縣名トナシテ記入) 製産者、記號、番號、種別(春秋黃白)及拔絲本數等其ノ所要欄ニ記入シ猶出張検査ノ検査表ニアリテハ以上ノ事項ヲ記入セル外出張所番號ヲモ記入ス

水分検査表ニハ受付年月日、請求者、產地、製産者、種別、受付番號ヲ記入ス、出張検査ニ對スル水分検査表ハ出張所ニ於テ之ヲ調製シ傳票ヲ添へ本所ニ送付シ來ルヲ以テ本掛ニ於テハ之ニ所要番號ヲ記入ノ上直ニ乾燥掛ヘ送付スルモノトス

記入ノ順序 検査番號ハ一ケ年ヲ通ジ追番ヲ用ウルガ故數字ノ桁數多ク爲メニ一目シテ検査表ノ順位ヲ判定シ難キコトアルヲ以テ之ガ不便ヲ避ケン爲メニ請求書ノ欄外ニ毎日受付順ニ頁番號ヲ附ス故ニ検査表調製ノ順序ハ先ヅ第一ニ頁番號ヲ次ニ受付番號ヲ押捺シ水分検査表ニハ乾燥番號ヲ練減及特別検査ノ検査表ニハ受付番號及検査番號ヲ押捺ス、而シテ請求書ハ檢定證掛ヘ正量検査表及原量又ハ特別検査ノ検査表ハ風袋計算係ヘ水分検査表練減検査表ハ原量記入係ヘ廻付スルモノトス

原量記入 秤量方ヨリ廻付セル原量傳票ヲ整理シ置キ水分及其ノ他ノ検査表ニ逐次原量ヲ記入シ再調方ヘ廻付シ之ヲ調査セシメタル上傳票ト共ニ乾燥掛ヘ送ル

第三節 風袋量ノ計算

風袋量ノ計算ヲナスニハ先ヅ検査表ニ風袋量、總全量及括數ヲ記入セザルベカラズ其ノ記入順序ハ大天掛或ハ出張所ヨリ廻送サレタル諸傳票ヲ整理シ検査表及傳票ノ整ヒタルモノヨリ逐次番號ヲ照合シテ記入ス、而シテ之ガ記入ニ際シテハ左記ノ要項ニ注意シ秤量係ニ於ケル調査漏レノ有無ヲ檢スルモノトス

(イ) 風袋傳票ノ調査 一荷口中ヨリ採取シタル總風袋量ヲ其ノ數ニテ除シテ得タル一括ノ平均風袋量ノ算定及同一製糸場ノ風袋ハ畧一定セリト雖モ往々其ノ多寡ノ差著大ナルモノアリ、其ノ一括分ノ平均二瓦以上ノ差アリタル場合ハ兩者共各種ノ風袋物ヲ類別秤量シテ之ヲ傳票ニ記入シ平均量ノ正確ナルコトヲ證スルモノトス、風袋秤量係ハ常ニ其輕重ニ留意シ其ノ甚ダシキモノアリタルトキハ風袋物採取ノ過不足ヲ調査シタル上一括量ヲ秤量シ其ノ量ガ平均量ニ等シク秤量ニ誤謬ナキ場合ハ「正」ヲ附シ其ノ調査ヲ行ヒタル證トス、角紙ハ十二枚付○印八枚付×印四枚付△印ニテ傳票ニ表示スルヲ以テ此場合ニハソレト一瓦、五盼、二盼ヲ加算スルモノトス

然レドモ用紙ノ大小厚薄不同ナルモノニアリテハ其ノ實量ヲ調査シ計算ス

金巾袋量ハ布地ノ厚薄形狀ノ大小ニヨリ差異有リト雖モ同一請求者ノ分ハ畧々一定セルモノナレバ同量ノモノ、連續スルコトアリ斯ノ如キ場合ニハ傳票ニ「正」ヲ附シ又一荷口中二十瓦以上ノ差アリタルトキハ再秤ヲ行ヒ「正」ノ記號ヲ附シテ調査シタル證トス、以上ノ如ク調査セルモノハソレト符號ヲ附スルガ故ニ若シモ右ノ

如ク同一量ガ連續スルカ又ハ二十瓦以上ノ差異アルモノニシテ符合ナキ場合ハ調査漏レナレバ風袋係ニ照合シテ之ヲ確メタル上記入スルモノトス

(ロ) 總全量記入 總全量ハ正量ヲ算定スル基礎ニシテ最モ大切ナル量目ナルガ故ニ慎重ニ秤定ヲナスト雖モ往々括數ノ相違又ハ量目ノ誤記等アル場合アルヲ以テ之ガ記入前括數ト量目ノ關係ヲ審査スルヲ要ス、而シテ一括量ハ通常二斤乃至二斤二百瓦位ナルヲ以テ同一括數ニシテ二斤以上ノ差アルモノ又ハ括數ノ増減ニ因リ一括二斤ノ割合ニ増減セザルモノ或ハ連續シテ同量ノモノ有ル場合ハ再調係ニ注意ヲ促ス爲メニ其ノ總全量傳票ノ末尾ニ「○」ヲ附シ置クヲ以テ再調シタルトキ重量、括數共ニ誤謬ナケレバ之ニ「正」ヲ附シ通知シ來ルヲ以テ正傳票ニモ之ニ倣ヒ「正」ヲ附シ秤量ノ正シキコトヲ證明ス可キモノナルガ故ニ記入係ハ前述ノ記號ナキ場合ハ括數及總全量ヲ再調セシメ共ニ正否ヲ確ムルモノトス、可檢生絲中ニ器械検査ニ供用セル殘絲ヲ薄紙ニ包ミタル所謂「ガラ」絲ノ添入セラルモノアリ此場合ハ傳票ニ「ガラ」ノ數ヲ記入シアルヲ以テ其ノ包紙ニ對シ一枚十瓦ノ割合ヲ以テ風袋量ニ加算スルモノトス

以上ノ調査ヲ行ヒタル後風袋及總全量傳票ヨリ其ノ量目ヲ検査表ニ記入シ風袋計算係ヘ廻付ス所内検査ニアリテハ正量検査表ノ欄外ニ總全量傳票ニ記載ノ乾燥番號ヲ記入スルモノトス

風袋量ノ計算ハ平均一括量ニ一俵或ハ一捆ノ括數ヲ乘ジ得タル數量ヲ瓦以下四捨五入シテ一俵若シクハ一捆ノ風袋量トナス俵ニアリテハ之ニ金巾袋量ヲ加算ス若シ包紙其ノ他欠除セルモノアルトキハ其ノ相當量ヲ調査シタル上控除シ總風袋量ヲ算定スルモノトス

總風袋量ハ十瓦以下四捨五入シ總全量ト同一單位ニ改算ノ上之ヲ控除シ總原量ヲ定ムルモノトス

計算ノ再調 以上ノ如ク計算シタル検査表ヲバ更ニ各項目毎ニ傳票ト照合シタル上各計數ヲ檢算シ尙一荷口ノ合計量ニ付差引計算ヲ行ヒ過誤ナキヲ確メタル後風袋量傳票ハ之ヲ殘シ検査表及總全量傳票ハ檢定證掛ヘ廻付スルモノトス

風袋計算表 風袋量ノ計算ヲナスニ其ノ正確ト敏速トヲ期スル爲メニ計算表ヲ調製シテ之ヲ使用ス、本表ハ十瓦ヨリ五十一瓦ノ範圍ニ於テ捆用トシテハ十五、十六括ヲ俵用トシテハ二十六乃至三十一括迄ノ括數ヲ乘ジテ計算セル數字ヲ臚列表示ス即チ風袋量ヲ縱列括數ヲ橫列トナシ其ノ計算セル積ヲ括數ノ下ニ列記ス、本表ヲ使用スルトキハ算術ニ未熟ノ者ト雖モ容易ニ且ツ敏速ニ計算シ得ルノ便アリ

正誤ノ手續 總全量、括數、風袋量其ノ他記號、番號等總テ成績ニ關スル事項ニシテ風袋量計算後誤謬ヲ發見シタル時ハ其ノ係ニ於テ訂正通知簿ニ月日ト訂正スベキ生絲ノ番號ト正誤ノ兩數字及訂正事由ヲ記載シ送付シ來タルヲ以テ其ノ成績ハ直ニ改算ノ

手續ヲ取ルト同時ニ取扱者ハ訂正ノ手續済ミタルコトヲ證スル爲メニ通知簿ニサインヲ施シ之ヲ發送シタル係ニ返還スルモノトス、而シテ訂正セル検査表ニハ欄外ニ其ノ要項ヲ附記ス可シ若シ検査表ガ檢定證掛ヘ廻付サレタル後ニ於テハ訂正通知簿ハ檢定證掛ヘ送り訂正ノ手續ヲナサシメ之ガ返戻サレタル時訂正手續執行済「サイン」ノ有無ヲ調査スルモノトス

第四章 乾燥掛

乾燥掛ノ業務ハ供試料絲ヲ乾燥シテ無水量ヲ檢定シ其ノ含水歩合ヲ算出スルモノニシテ之レニ附隨スル諸作業ヲ行フモノトス、而シテ其ノ作業ヲ大別スレバ料絲ノ配付、無水量ノ秤定、含水率計算及供試料絲整理ノ四係トス

第一節 料絲ノ配付

本作業ハ中天掛ヨリ料絲ノ送付ヲ受ケタルトキハ迅速ニ其ノ番號ヲ整へ之ヲ順次乾燥ノ各區ニ配附シ又乾燥終了後ハ之ヲ整理係ヘ廻付ヲナス業務ノ外乾燥員(即チ無水量秤定係)ヲ補佐シ料絲ヲ(バスケット)ヨリ出シ入レヲ爲ス手傳ヲ行フモノニシテ料

絲ノ配付ニ當ツテハ其ノ函番號ヲ帳簿ニ控ヘタル上之ヲ行フ

供試料絲ノ番號ハ常ニ順序ヨク來ルモノニ限ラズ相前後シテ送付サル、コト多キヲ以テ之ヲ整フルニ努ムト雖モ大天掛檢査ノ都合上甚ダシク番號ノ飛ブコトアルヲ以テ番號ノ不揃ヨリ生ズル過誤ヲ防グ目的ヲ以テ料絲ヲ各區ヘ配付スルニ當リソノ番號ヲ帳簿ニ控ヘ何番ハ何區ニ又何回目ノ乾燥トナリ居ルヤヲ明カナラシム

第二節 無水量ノ秤定

乾燥員ハ毎朝始業前各自擔任セル乾燥器、同天秤及ビ絲函臺其ノ他ノ附屬器具ヲ清掃スルト共ニ天秤ヲ精査シ「バスケット」ヲ吊リ下ゲテ分銅皿ト能ク均齊ヲ保タシムル可ク調整スルモノトス、而シテ乾燥作業着手前一定時間ニ於テ監督者ノ指揮ヲ受ケ乾燥器及旋風機ニ電氣ヲ通ジテ目的溫度ヲ調ブルニ努ムルモノトス、目的溫度ハ攝氏ノ百四十度ト定ムト雖モ下部檢温器ニ於テハ百七十度ヲ以テ適當トス

(イ)生絲ノ入レ方 生絲ヲ乾燥スルニハ捻ヲ解キ總ニ固マリ無キ様ヨクサバキ一總宛丁寧ニ「バスケット」ニ入レ(其ノ入レ方ハ「バスケット」ノ底ニ凸狀セル部分ヲ總ニテ充分包ム様ニナスコト)目的溫度ヲ保テ乾燥器内ニ吊下グ而シテ無水量傳票ニ可檢生絲ノ番號及其ノ乾燥器ノ番號ヲ記入シ檢査員ハ之ニ「サイン」ヲナスモノト

ス、乾燥器ノ温度ヲ目的温度ニ到ラシムルニハ川西製ニ在リテハ電氣ヲ通ジテ後三十分間ヲ要スルモ「スタンダード」ニアリテハ僅ニ七、八分位ニシテ之ニ達ス

(ロ)「バスケット」「バスケット」ハ乾燥器一臺ニ對シテ三個宛ヲ備ヘ其ノ上部ノ縁ヲ赤、黒、青ノ三色ニ區別シ乾燥器ト同一番號ヲ記入ス、而シテ同一回數ノ乾燥ニハ各區共同色ノ「バスケット」ヲ用ウル事トシ以テ乾燥中ノ過誤ヲ防ギ併セテ誤謬ヲ生ジタル場合之ヲ調査スルノ便宜タラシム川西製乾燥器附屬「バスケット」ノ重量ハ分銅皿ト同量ニシテ五百瓦ニ一定スト雖モ「スタンダード」乾燥器ハ區々ニシテ各個其ノ量ヲ異ニス、然レ共同一乾燥器ニ附屬セル三個ハ總テ同量ニシテ「バスケット」及鈎ハ分銅皿増玉及分銅鈎手ヲ加ヘタル量目ニ一致ス故ニ川西製ニアリテハ甲乙兩器ニ附屬スル「バスケット」ヲ誤ツテ取違ヘテ使用スルモ其ノ重量ニハ誤ヲ來サルモ「スタンダード」ニアリテハ然ラズ直ニ差異ヲ生ズ可キヲ以テ取扱上深く注意セザルベカラズ

(ハ)乾燥生絲ヲ乾燥器内ニ吊下ゲテヨリ十五分ノ後先ヅ一回ノ秤量ヲナシ爾後五分毎ニ秤量シテ遂ニ全ク減量セザルニ至リテ無水量ヲ決定シ乾燥器ヨリ取出スモノトス、此時間ハ凡三十分乃至三十五分ナリトス、然レドモ第二回以後ノ乾燥ニシテ第一回ノ乾燥中十五分以上豫備乾燥ノ行ハレタル場合ニ於テハ豫備乾燥ニ於テ其ノ大部分ノ水分ヲ發散セルヲ以テ本器ニ移シテ後ハ二十分若クハ二十五分ヲ以テ全ク乾燥ス

ル故ニ第二回以後ニシテ連續的ニ作業スル場合ニ於ケル乾燥時間ハ特別ニアラザル限リ二十分乃至二十五分ニテ乾燥スルモノトス（豫備乾燥器内ノ温度ハ九十度乃至百度ナリトス）

器内ノ空氣ハ送風機ニヨツテ絶エズ送入サル、ガ故秤量ニ際シテハ送風機ヲ止ムルカ又ハ其送入口ヲ閉鎖スルニアラサレバ空氣ノ流動激シキ爲メ正確ナル秤量ヲ爲シ得ザルヲ以テ川西製ニアリテハ熱氣ノ送入口ヲ閉ジ「スタンダード」ニアリテハ電氣ヲ遮斷シ送風機ヲ止メ空氣ノ靜止ヲ俟ツテ秤量スルモノトス、而シテ作業中ハ常に温度ニ留意シテ之ガ調節ヲ圖リ「バスケット」鈎鈎及分銅皿等ノ器縁ニ接觸セザルヤ否ヤヲ確ムルコト最モ緊要ナリトス、斯クシテ無水量ヲ秤定セバ之ヲ傳票ニ記入シ検査員相互ニ於テ其ノ分銅ヲ音讀照合シタル上傳票ハ計算係ニ送付スルモノトス乾燥掛ノ作業ハ前述ノ如ク無水量ノ秤定ニアリト雖モ之レニ使用スル機械器具ノ調査並ニ掃除等モ重要ナル作業ノ一タルヲ以テ左ニ之ヲ述ベン

第三節 器具ノ調整

(イ)乾燥器天秤ト其ノ附屬物ノ調査 天秤ハ無水量ヲ秤定ス可キ最モ重要ナル器具ナルヲ以テ日々始業前ニ行フ調査ノ外毎月一回以上精細ナル定期ノ調査ヲ行ヒ其ノ正否

ヲ檢スルモノトス、其ノ方法ハ天秤ノ分銅皿ヲ取り外シ桿ニ他ノ重量ヲ加ヘズシテ其ノ秤針ノ全ク秤点ヲ指シ正確ナルコトヲ確メタル後最少秤量タル五厘ヲ左右ニ載セ換ヘテ感量ノ有無ヲ訂シ更ニ天秤ノ秤量相當ノ原器（分銅）ヲ兩方ニ吊下ゲ天秤ノ狂差ノ有無ヲ檢シタル上更ニ五厘ノ分銅ヲ用キテ感量ノ有無ヲ調査スルモノトス「バスケツト」及分銅皿ハ五百瓦ニ一定スト雖モ日々頻繁ニ使用スルガ故ニ自然ニ磨滅スルモノナレバ定期ノ調査ヲ行フ所以ニシテ此場合ニハ專用ノ天秤（感量五厘）ヲ以テ原器ト其ノ重量ヲ比較シ差ヲ生ジタルモノアル時ハ其ノ量ヲ調節シテ檢査ノ正確ヲ期スルモノトス

(ロ) 乾燥器温度ノ調節 生絲乾燥ノ目的温度ハ攝氏百四十度トナスト雖モ川西製乾燥器ニアリテハ其ノ構造上檢温器ノ表示スル温度ヲ百七十度ニ定メタルハ檢温器取附ノ位置ガ生絲ヲ乾燥スル位置ヨリ下方ニアリテ目的温度トスル生絲ヲ乾燥スル位置ノ温度ヲ示サザルヲ以テ温度調査ヲ行ヒ之ヲ定ム其ノ方法ハ生絲ヲ乾燥スベキ位置ニ標準寒暖計ヲ挿入レ温度ヲ百四十度ニ保タシメ而シテ其ノ場合ニ乾燥器ニ取附タル檢温器ノ温度百七十度ヲ的確ニ示シ得ル様電熱器ニヨツテ温度ヲ調節ス故ニ一度調節ヲ行ヒタルモノモ使用時間ノ長キニ亘ル時ハ此目的温度ト示度トノ差（三十度）ガ均齊ヲ欠キ變異ヲ來スコトアルヲ以テ毎月又ハ隔月毎ニ定期ノ調査ヲ行ヒ温度ノ調節ヲナスコト肝要ナリトス

(ハ) 乾燥器及送風機ノ掃除 乾燥器並ニ排氣パイプ、送風機等使用長期ニ亘ルトキハ自然塵芥ノ爲メニ故障ヲ起ス事アルヲ以テ之又定期ニ掃除ヲ行フノ要アリトス
(ニ) 分銅及寒暖計ノ調節 分銅ハ金屬製ナレバ容易ニ變化スルモノニアラズト雖モ使用回数ヲ重ヌルニ從ヒ自然ニ磨滅シテ輕量トナリ公差以上ノ差ヲ示スニ至ルトキハ使用スルコト能ハザルヲ以テ定期ノ調査ヲ行ヒ標準器ト比較シテ其ノ重量ヲ精査シ定メラレタル公差ノ範圍ヲ越エタルモノハ之ヲ廢棄トシ新品ト取替ヘ補充スルニ努ムルモノトス
寒暖計モ同様ニ定期ノ調査ヲ行ヒ標準計ト示度ヲ比較シ差違多キモノハ修繕シテ正確ヲ期スルモノナリトス

第四節 計 算

中天掛ヨリ送付セル水分檢査表ハ原量傳票ト照合シタル上無水量ヲ記入シ各水分率ヲ求メ規定ノ調査手續ヲ遂ゲタル後各原量、無水量、水分量ノ合計ヲ求メ之ガ百分率ヲ算出スルモノトス、而シテ之ガ計算ノ順序ヲ示セバ

(一) 無水量ノ記入 無水量秤定係ヨリ送付シ來レル無水量傳票ニヨリ乾燥番號ヲ水分檢査表ノ番號ト引合ハセヲナシツ、其ノ相當欄ニ無水量ヲ記入スルモノトス

- (二)水分率ノ計算 無水量ノ記入サレタル検査表ハ傳票ト共ニ廻付サル、ヲ以テ検査表ト傳票トヲ更ニ照合シタル上水分率表ニヨリA、B、各別ニ水分率ヲ算定スルモノトス而シテ其兩水分率ノ差〇、五%以内ナルトキハ一荷口分ノ原量無水量ヲ合計シテ平均水分率ヲ算定ス然ルニ若モA、B、兩率ガ〇、五%以上ノ差ヲ示シタルトキハ一、分銅ノ見誤リナキヤ
二、A、B、轉換セズヤ又ハ混合ノ有無
三、函番號相違ノ有無
四、生絲ヲ秤量シテ無水量ノ適否ヲ判定スルコト
- 此場合ノ秤量ハ無水量ヨリ少キカ又ハ其ノ差ガA、B、ノ間ニ甚シキ相違アルトキハ更ニ調査ヲ要スベキヲ以テ次ノ係ヘ送り之ヲ再乾燥セシムルノ要アルモノトス
- (三)成績調査 A、B、兩率ノ差〇、五%以上ナルトキハ更ニCノ一區分ヲ取リテ検査スル規定ナルヲ以テ其ノ以内ノ場合ニハ直ニ合計平均率ヲ求メ檢定證掛ヘ送付スト雖モA、B、ノ差ガ〇、五%以上ナルトキハ左記ノ調査ヲ行ヒCノ採否ヲ決定スルモノトス
- (イ)C及増乾採否ノ調査 水分率記入ヲ終リタル検査表ヲ詳細ニ調査シA、B、水分率ノ差〇、五%以内ニシテ一荷口間ノ各俵水分率ノ平均ヲ比シ其ノ最モ大ナルモノト最モ小ナルモノトノ差一、〇%以下ナルトキハ直ニ計算方ヘ送ルト雖モA、B、率ノ

- 差〇、五%以上ニ及ブカ又ハ一荷口間ノ各俵水分率ノ開差一、〇%以上ナルトキハ成規ニヨリC又ハ増乾ノ検査ヲ施行セザルベカラズ(増乾トハ一俵分ノ料系八本ヲ普通ヨリ余分ニ取ルモノヲ云フ)此場合ニハ原量無水量ノ記入ニ誤リナキヤ又計算ニ誤リナキヤヲ調査シタル上當該生絲ヲ再乾燥シテ其ノ無水量ヲ確メタル後C及増乾ノ採否ヲ決定ス而シテC及増乾ヲ採取スルコトニ決シタルトキハ之ガ請求傳票ニ其ノ要項ヲ記入シテ中天掛ヲ經由シテ大天掛ヘ送付スルモノトス、大天掛ハ其傳票ヲ受取タルトキハ所定ノ料絲ヲ拔取り該生絲ノ總全量ノ訂正手續ヲナスト共ニ之ヲ中天掛ヘ送り傳票ハ受付掛ヘ廻送スルモノトス
- (四)合計率ノ計算 一荷口分ノ原量合計ヨリ無水量ノ合計ヲ控除シ之レガ水分量ノ合計量ハ一致スルヤ否ヲ確メタル後之ヲ原量ノ合計量ヲ以テ除シ其ノ商五桁ヲ算出ス此數字ハ正量算出ノ基礎トナルモノナルヲ以テ一位多ク算出セル關係上五桁以下ハ全部切捨テ普通ノ如ク四捨五入ノ計算ヲナサザルモノトス、而シテ別ニ計算シタル各俵ニ對スルA、B、水分ノ平均率ヲ一荷口分合計平均シテ得タル率ヲ先ニ求メタル平均率(原量ノ合計ニテ水量ノ合計ヲ除シ得タルモノ)ト對照シテ檢算スルモノトス此場合ニ於テ兩者間ニ〇、〇一%以上ノ開差アルトキハ更ニ各率ノ檢算ヲ行フモノトス
- C又ハ増乾ノ検査ヲナシ水分率ヲ求メタルトキハ之ヲ先ニ検査セル成績ノ中ニ加算シ

テ荷口ノ平均率ヲ算出シ検査表ハ檢定證掛ヘ送付スルモノトス

六四

第五節 料 絲 整 理

乾燥ヲ了シタル供試料絲ハ綴ヲ展ベタルマ、ナルヲ以テ之ヲ舊ノ捻造トナシ検査番號ヲ記入セル紙袋ニ入レ黃繭絲ニアリテハ○印ヲ附シ一荷口分宛緊縛シ整理シタル上受付掛ヘ送付スルモノトス、捻造トナス目的ハ綴ノマ、ニテハ取扱ヲ因難ナラシムルノミナラズ絲條ヲ損傷セシムル憂アルガ故ニ之ヲ防ガンガ爲メ行フ一種ノ整理方法ナレバ絲捻ヲナスニハ充分注意シテ亂レ絲ナキ様丁寧ニ之ヲ行フベシ

第五章 檢定證掛

檢定證掛ノ業務ハ單ニ檢定證ノ調製ヲナスニ止マラズ検査成績ノ計算、生絲受渡完了届ノ整理並ニ水分調査等ヲナスモノトス、今各作業ニ付之レヲ詳述セン

第一節 検査成績ノ計算

中天掛ニ於テ總全量及總風袋量ヲ記入シテ廻付シ來レル正量検査表ハ其ノ番號順ニヨリ各俵毎ニ總全量ヨリ總風袋量ヲ控除シテ總原量ヲ求メ尙總全量及總原量ノ封度量ヲ換算併記ス而シテ一荷口分ノ總全量總風袋量及總原量ヲ合算シ其ノ基瓦量ヲ更ニ封度及斤量ニ換算記入ス次ニ乾燥掛ヨリ廻付セラレタル水分検査表ハ計數ノ調査ヲ行ヒ且ツ求率表ニヨツテ水分率ヲ檢シタル後本表ヨリ供試料絲ヲ採取シタル俵數、料絲本數、同上ノ原量、無水量及水分百分比例ヲ正量検査表ノ相當欄ニ記入シ正量算出表ニヨリ各俵ノ正量ヲ算出シ之ニ換算シタル封度量ヲ併記シ更ニ其ノ荷口ノ合計正量ヲ求メ貯封度及斤量ニテ記入ス尙正量ニ對スル差額歩合ヲモ算定記入ス、以上ノ手續ヲ經計算シタル検査表ハ各項ニ付ソレハ嚴密ナル再調ヲナシタル上之ヲ「タイプライター」係ヘ廻付スルモノトス

第二節 檢定證ノ調製

(一) 檢定證ノ様式 檢定證ハ検査ノ種類項目ニヨリソレソレノ様式ヲ異ニス故ニ其ノ種類多様ナリ即チ其ノ様式ヲ舉グレバ次ノ如シ
イ、輸出生絲検査法ニ依ル様式第五號檢定證
本檢定證ハ施行規則第十一條ニ規定セル如ク検査ヲ終リタル時其ノ生絲ノ荷口ノ

六五

各俵毎ニ挿入スベキモノナレ共同三十二條ノ二ニ於テ申請ニ依リ當分ノ内検査済
 證票ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得且ツ此場合申請ニ依リ本檢定證ヲ別ニ交付スルコ
 トヲ得ル旨ノ規定アルモノニシテ現在ニ於テハ大部分後者ノ場合ナリトス

ロ、全第七號檢定證

ハ、全第八號檢定證

輸出生絲ノ検査ノ終了シタルトキハ必ず第七號及第八號檢定證各一通ヲ交付スル
 モノトス而シテ第七號ハ英文、第八號ハ和文ナリ現今生絲賣買取引兩者間ニ於ケ
 ル受渡量目ハ凡ベテ本證ニ記載セル正量ニ依ルノ規定ナルヲ以テ本證ハ取引上最
 モ大切ナルモノナリトス

ニ、普通検査ニ依ル様式第五號檢定證

普通検査即チ検査依頼書ニ依リ正量荷口検査トシテ検査セル場合發行スル檢定證
 ニシテ同荷口ノ各俵中ニ挿入スルモノナリ但依頼者ノ請求ニ依リテハ別ニ之ヲ交
 付スルコトヲ得

ホ、全第六號檢定證

ヘ、全第七號檢定證

正量荷口検査ノ依頼ニ對シ交付スル檢定證ニシテ第六號ハ英文、第七號ハ和文ナ
 リ

ト、全第八號檢定證

チ、全第九號檢定證

本檢定證ハ各俵又ハ各捆ニ付行フ正量檢定證ニシテ第八號ハ英文ニシテ生絲ノ包
 裝中ニ挿入スルモノナレ共依頼者ノ請求ニヨリ第九號和文檢定證ト共ニ別ニ之ヲ
 交付スル事ヲ得ルモノトス

リ、全第十號檢定證

ス、全第十一號檢定證

本檢定證ハ原量検査ニ對スル檢定證ニシテ第十號ハ英文第十一號ハ和文ナリ第十
 號ハ生絲ノ包装中ニ挿入スルモノナレ共依頼者ノ請求ニ依リ第十一號ト共ニ別ニ
 交付スルコトヲ得ルモノナリ

ル、全第十二號檢定證

ヲ、全第十三號檢定證

練減検査ニ對スル檢定證ニシテ英文、和文各一通ヲ交付スルモノトス

ワ、特別検査ニ依ル第十四號檢定證

カ、全第十五號檢定證

水分検査ノ依頼ニ對シ英文和文各一通ヲ交付スルモノナリ
 以上ノ十四様式アリ而シテ正量及水分檢定證ハ赤刷、原量檢定證ハ藍刷、練減檢定

(英文)

(和文)

(英文)

(和文)

右ノ外贖本檢定證アリ請求ニ依リ一件ニ付一通若クハ數通ヲ發行ス前掲「ロ」「ハ」ノ英和文二様式ニシテ欄外ニ「ロ」ニハCopy「ハ」ニハ贖本ノ二字ヲ印刷シ共ニ青刷ナリ和文贖本ハ生絲ノ製産者ヘ送付サル、仕切書ノ代用ヲナスモノナルヲ以テ此分ニ限リ其ノ欄外ニ生絲ノ製産者名及括數ヲ記入スルモノトス

(二)檢定證ノ作製 檢定證ハ受付掛ヨリ中天掛ヲ經テ廻付シ來レル請求書又ハ依頼書ニ依リ作製スルモノトス、而シテ依頼書ニ依ル普通正量檢定證、原量、練減及水分檢定證ハ其ノ作製ノ順序ハ前者ト異ナルトコロナキヲ以テ茲ニハ主トシテ請求書ニ依ル正量檢定證ノ調製ヲノミ述ブルコト、ス

中天掛ヲ經テ廻送サレタル請求書ハ先ヅ檢定證押印係ニ於テ受理點檢シタル上之ニ依リ檢定番號、検査年月日、生絲種別、記號、番號、請求者名ヲ前記「イロハ」檢定證ノ相當欄ニ押印記入シ請求書ト照合ヲ終リタルトキハ檢定番號順ニ依リソレゾレ整理シタル上檢定證ハ「タイブライター」係ヘ請求書ハ檢定證發送係ヘ廻付ス
「タイブライター」係ハ計算係ヨリ送ラレタル正量検査表ト對照シ其相當番號ノ檢定證「イ」ヨリ「ロ、ハ」ト所要ノ數字ヲ「タイブライター」ヲ以テ記入シ照合係ヘ送ル照合係ハ正量検査表ト檢定證ノ數字及押印係ニ於テ記入サレタル檢定證番號、記號及其ノ番號等ニ付仔細ニ照合シ過誤ナキトキハ「ロ」檢定證ト検査表ニ所印ヲ以

テ契印ヲ施シ更ニ「イ、ロ、ハ」ノ檢定證各通ニ所長印ヲ押捺シ検査表ト共ニ檢定證檢算係ヘ送ル檢算係ニ於テハ檢定證面ノ數字ニ付檢算シタル上發送係ヘ送ル發送係ハ検査表ト檢定證ヲ點檢シタル上之ヲ引離シ検査表ハ調査係ヘ送り檢定證ハ受付掛ヨリ廻付サレタル検査臺帳ニヨリ檢定證ノ各欄ヲ調査シ請求書ヲ添ヘ受付掛ヘ發送スルモノトス

凡テ檢定證ハ前述ノ如ク生絲賣買取引上最重要ナル關係ヲ有スルモノナルヲ以テ之ニ記載セル文字ハ嚴正ニシテ訂正又ハ改竄ヲ加フルコトナキモノトス故ニ之ガ作製ニ當リテハ常ニ周密ナル注意ヲ拂ヒ絶對ニ過誤ナキコトヲ期セリ

第三節 受渡完了届ノ整理

輸出業者ガ生絲ヲ賣買シタルトキハ輸出生絲検査法施行規則第二十六條ノ規定ニ依リ必ズ受渡完了届ヲ検査所々長ニ宛提出セザルベカラザルヲ以テ検査ノ請求者ハ取引生絲ノ荷口毎ニ受渡完了届ヲ提出スルガ故ニコノ届出ト検査表其ノ他トノ照合ニ依リ検査シタル生絲ノ受渡完了ノ濟否ヲ確ムルモノトス、即チ検査終了シタルモノニ付其ノ検査表ニ依リテ各請求者別ニ區分セル完了届照合臺帳ニ検査月日、檢定證番號、取引相手方、記號、番號、製産者名、生絲種別、俵數、總括數、拔絲本數、總全量、風袋

量、總原量、正量、水分率等ノ總テヲ記入シ置クモノニシテ後日請求者ヨリ受渡完了ノ届出アリタルトキハコレト照合シ同臺帳要欄ニ届受付月日、契約月日、受渡完了月日、受渡數量ヲ記入シ照合濟ノ欄及完了届ニ㊦印ヲ捺捺シ以テ照合濟ノ證トセリ

第四節 水分並ニ正量目ノ調査

全國各製絲場ニ於テ製出セル生絲ハ水分不同ナリト雖モ同一工場ノ製品ハ概ネ一定セルヲ以テ之ガ検査ニ從事スルモノハソノ多寡ヲ知悉スルノ要アリ故ニ正量検査ヲ施シタル生絲ニ對シテ悉ク工場別ニソノ水分ヲ調査シ一ケ年ヲ二期ニ別チテ之ガ成績表ヲ調製シ検査ノ參考資料トナスト同時ニ各工場別ニ正量目ヲ調査シ各工場ニ於ケル一ケ年ノ生産額ヲ知ル資料トナス

第六章 練減検査

練減検査ハ生絲三本ヲ以テ検査ヲ請求スベキモノナルヲ以テ其ノ受入レタル生絲中ヨリA、B二本ヲ採リ其ノ原量及無水量ヲ檢シ之ニ番號ヲ附シタルテ「ブ」ニテ緊結シ生絲ハ番號別ニ區分シタル上麻袋ニ入レシム、而シテ精練器ニハ生絲無水量ノ二十倍乃

至三十倍ノ水ヲ入レ蒸汽ヲ通ジテ沸騰シタル後（検査生絲ノ少量ノ場合ニハ蒸汽式ノ代リニ電熱ヲ使用セル練減釜ヲ使用ス）生絲無水量ノ四分ノ一ノ精練用石鹼（從來ハ佛國製マルセーユ石鹼ヲ使用シ來リシガ昭和二年七月以降ハ本所ニ於テ製シタル椿油石鹼ヲ用ウ）ヲ薄片トシテ之ヲ投ジ全ク溶解シタル後袋ノマ、生絲ヲ入レ攝氏九十六度ノ溫度ヲ以テ煮沸スルコト三十分間ノ後之ヲ引掲ゲ脱水機ニテ能ク絞水シタル上袋ヨリ生絲ヲ取出シテ「ブ」ノ緊結セル位置ヲ變替シ再ビ袋ニ入レ前回ト同一工程ヲ反復シタル後生絲ヲ取出シ生絲無水量ノ五十倍ノ溫湯ニ絲量百分ノ三ノ炭酸曹達ヲ溶解セシメタル溶液ヲ以テ之ヲ洗滌シ更ニ炭酸曹達量ヲ生絲ノ百分ノ二及百分ノ一ヲ溶解シタル微溫湯ニテ前後二回洗滌シ石鹼分ヲ除去シ更ニ微溫湯ニテ一回冷水ニテ一回洗滌シタル後稀薄醋酸液ニ浸漬スルコト凡ソ二十分間ニシテ之ヲ絞リ上ダ艶出シ操作ヲ施シ練絲伸張器ニ掛ケ風乾シテ後之ヲ乾燥シ無水量ヲ檢出スルモノトス、而シテ練後ノ無水量ヲ練前ノ無水量ニ比シ減耗量ニ對スル百分比例ヲ算出ス、若シA、B、兩區ノ百分比例ノ差一、〇〇以上ナル場合ニアリテハ更ニ殘リノ一本ヲ精練シテ其ノ百分率ヲ求メ之ヲ計算方ヘ送付ス、計算方ハ各區ノ無水量ヲ合計シテ一件ノ練減率ヲ算定シ之ヲ檢定證掛ヘ已檢生絲ハ受付掛ヘ廻送シ受付掛ハ檢定證ト共ニ請求者ニ返付スルモノトス

(イ) 精練用水 生絲ヲ精練スベキ用水ハ蒸溜水ニ限ルト雖モ多量ノ蒸溜水ヲ得ルコトハ

費用ト時間トヲ多ク要スルヲ以テ本所ニ於テハ「バームチット」濾水器ヲ用キ殆ン
 ド蒸溜水ト異ナラザル程度ニ迄軟水トナシタルモノヲ使用ス
 生絲ヲ精練スベキ水量ヲ生絲無水量ノ二十倍乃至三十倍トナシタルハ全一精練器ヲ
 用井小量生絲ヲ全一割合ノ用水ニテ煮沸セバ規定時間内ニ液ハ蒸發シテ生絲ハ煎着
 スル憂アルノミナラズ練斑ヲ生ズルコトアルガ故ニ水量ハ精練スベキ生絲ノ量ニヨ
 リ右ノ範圍内ニ於テ増減スルモノトス、而シテ水量ハ一リツトル（凡ソ五合五勺）
 ヲ一盪トシテ之ヲ定ム

(ロ)石鹼 生絲精練ニ使用スベキ石鹼ハ中性ニシテ遊離脂肪ナキモノヲ良シトス、本所
 ニテ使用スル石鹼ハ椿油ヲ以テ製シタル優良品ナレバ遊離アルカリ一分又ハ遊離脂
 肪甚ダ少キモノナリトス、石鹼ノ良否ハ精練後ノ絲質ニ影響ヲ及ボスモノナルヲ以
 テ之ガ鑑定ヲナスコト必要ナリトス、即チ遊離アルカリヲ檢出セント欲セバ石鹼
 ヲアルコールニ溶解シ「フェノールフタレイン」ノアルコール溶液ヲ滴下セバ紅色
 ヲ呈ス、又遊離脂肪ハ切片ヲ顯微鏡下ニ檢セバ未鹼化脂肪ヲ檢出スルコトヲ得ベシ

第七章 計算表

計算事務ハ凡テ正確迅速ヲ要スルモノナルヲ以テ之ガ目的ヲ達センガ爲メニ水分求率
 表及正量算出表ヲ使用ス、此兩表ハ計算頗ル簡明ニシテ過誤ニ陥ルコト稀ナリトス
 今左ニ其組織並ニ使用方法ヲ述ブベシ

第一節 水分求率表ノ組織

生絲ノ含有水分ハ其ノ多キハ一割四分寡キハ七分五厘内外ニアルヲ以テ水分求率表モ
 亦此範圍内ニ於テ組織シタルモノナリ、各所定ノ原量ニ各種無水量ヲ連結シ之ニ對ス
 ル水分率ヲ算定シ表中ニ之ヲ臚列セルヲ以テ直ニ之ヲ引用シ其ノ水分率ヲ知悉シ得ベ
 シ

第二節 水分求率表ノ調製

該表調製ノ方法ハ先ヅ所定原量ニ對スル一割四分前後ノ無水量ヲ算定シ更ニ水分量及
 之ガ水分率ヲ算出シ（其ノ率ハ九位迄トス）之ヲ表ノ第一段トシ又別ニ原量ヲ以テ一
 デシグラムヲ除シソノ商ヲ八位迄採リ第一段ノ水分率ヨリ此數ヲ減去スルトキハ第二
 段ノ水分率即チ第一段ノ無水量ニ比シ一デシグラム少ナキ無水量ニ對スル水分率ヲ得

ベシ斯克ノ如クシテ反覆數百回ニシテ七、五〇前後ニ到ラシム左ニ計算ノ順序ヲ示ス
 例

$$\begin{aligned} & \text{原量 } 300.00 \quad \text{水分率 } 14.00 \quad (\text{A、B率ニ摘要スルモノ}) \\ & \frac{300.00 - 300.00 \times 14.00}{100} = 258.00 \quad \text{無水量} \\ & 300.00 - 258.00 = 42.00 \quad \text{水量} \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} & \frac{42.00}{100} = 14.00000 \quad \text{第一段ノ無水量ニ對スル水分率} \\ & 1 + \frac{300.00}{100} = 0.03333333 \quad \text{水量一デシグラムニ對スル水分率} \end{aligned}$$

調製ノ順序	無水量	水量	運算	水分率
第一段	258.0	42.0	14.0000000	14.000
第二段	258.1	41.9	$\frac{-0.0333333}{13.9666666}$	13.966
第三段	258.2	41.8	$\frac{-0.0333333}{13.9333333}$	13.933
第四段	258.3	41.7	$\frac{-0.0333333}{13.9000000}$	13.900

以下之レニ倣フ

第三節 水分求率表ノ使用法

本表使用ノ方法ハ先ヅ算出セントスル水分検査表中ノ原量ト同一數ヲ以テ原量トスル表中ノ一表ヲ索メ更ニ検査表ノ無水量ト同一量數ヲ表ノ無水量欄ニ求ムルトキハ其ノ横列上ニ列記セル量數ハ即チ所要ノ水分量及水分百分比ナリトス、故ニ之ヲ検査表ノ相當欄ニ記入シ計算ヲ了スルモノトス、但シA、B、ノ水分ハ四位以下ヲ四捨五入スト雖モ一荷口分ノ合計量ニ對スル水分率ハ五位迄取り五位以下ハ總テ切捨ツ、後者ノ五位迄計算スル所以ハ正量算出上ノ必要ニ出デタルナリトス

第四節 正量算出表ノ組織

本表ハ總原量ヲ基礎トナシ水分率ノ多寡ニヨリ之ニ相對セル總無水量ヲ算定シ而シテ公定水分量、正量、正量封度ヲ表ノ一欄一行中ニ臚列シタルモノナルヲ以テ已ニ總原量ト水分率ノ兩者ヲ知ラバ容易ニ所要ノ正量ヲ索引シ得ルモノトス、本表ヲ作製セントスルニハ先ヅ水分率一四、〇〇%ヲ標準トシ之ニ相當セル總無水量ヲ算定シ十瓦ヲ末位トシ表ノ第一段ニ記入シ而シテ第二段以下順次十瓦ヲ追加シ總原量ノ八割内外ノ數量ヲ得ルニ到リ之ヲ止ムルモノトス

總無水量ハ標準トセル水分率ヲ基本トシテ算出シ定ムルモノニシテ其所要末位以下第一桁ニ於テ四捨五入法ヲ行ヒ之ヲ四位トセリ水分率ハ已定總無水量ヨリ五瓦ヲ減ジタル量數ト總原量トヲ比較シ水分率ヲ算定スルモノトス
左ニ之ガ實例ヲ示シ詳述スベシ

例 總原量 60.00^K

$$\text{想定水分率 } 14.000\% \text{ ノ時ハ } 60.00 \times \frac{100-14.00}{100} = 51.60 \text{ }^{\text{K}} \text{ 總無水量}$$

$$60.00 - (51.60 - 0.005) = 8.405 = \text{水量}$$

$$\frac{8.405 \times 100}{60.00} = 14.0083333 = \text{水分率}$$

(總無水量51.60ヨリ0.005ヲ減ズルハ計算ノ方法ガ末位以下第一桁ハ四捨五入ヲナスヲ以テ其ノ四捨五入セル境界線ニアル水分率ヲ示スナリ)

右計算ニヨリテ之ヲ見レバ六〇・〇〇〇ノ生絲ニシテ水分ヲ含有スルコト一四・〇〇八三三三ナル時ハ其總無水量ハ五一・五九五即チ五一・六〇ト算定スルガ如シ又水分量十瓦増減ノ割合ハ即チ總無水量十瓦増減ニ對スル水分率増減ノ差ナルベシ

$$0.01 \div \frac{60.00}{100} = 0.01666666 \quad \left\{ \begin{array}{l} \text{總原量 } 60.00 \text{ }^{\text{K}} \text{ 場合ニ於テ水量 } 10 \text{ }^{\text{K}} \\ \text{ } = \text{對スル水分率} \end{array} \right.$$

即チ總無水量(又ハ水分量)十瓦ノ増減ヨリ來ル水分率ノ差額ナリトス故ニ第一段ノ水分率ヨリ此差額ヲ減ゼバ第二段總無水量五一・六一ニ對スル水分率ナリトス
即チ左記實例ノ如シ

總原量	總無水量	運算	水分率
60.00 ^K	51.60 ^K	14.0083333	14.008%
		- 0.0166666	
	51.61	13.9916666	13.991.
		- 0.0166666	
	51.62	13.9750000	13.975.
		- 0.0166666	
	51.63	13.9583333	13.958.

斯ノ如ク反覆シテ所要ノ水分率ヲ算出シ得ベシ

公定水分量ニ對スル水分率

公定水分量トハ無水量ニ其ノ一割一分ヲ乘ジタルモノヲ云フ即チ已ニ述ベタルガ如ク總無水量ハ其ノ末位ニ於テ四捨五入法ヲ行ヒタルモノナレバ之ヲ五位ニ復シ公定水分率一割一分ヲ乘ジ其ノ末位ニ於テ四捨五入法ヲ行ヒ三位ニ止メ公定水分量ヲ定ムルモノトス

正量算出表ノ例

總原量	水分率	總無水量	公定水量	正量	正量封度
△	14.015	51.59	5.68	57.27	126.26
	14.008	51.60	"	57.28	28
	13.991	51.61	"	57.29	30
	975	51.62	"	57.30	126.32
	958	51.63	"	57.31	34
	941	51.64	"	57.32	37
	925	51.65	"	57.33	39
	908	51.66	"	57.34	41
	891	51.67	"	57.35	43
	875	51.68	"	57.36	46
	13.863	51.68	5.69	57.37	126.48
	858	51.69	"	57.38	50

備考 △印ハ公定水量ノ變化スル段ナリトス

第五節 封度換算表

大正十一年檢定證ヲ英文ニ改ムルト全時ニ（其ノ以前ハ佛文ヲ採用セリ）輸出業者ノ希望ヲ容レ總全量、總原量及正量ノ三項ニ對シ封度ニ換算シタル數字ヲ列記スルコト、セシヲ以テ別ニ疋ニ對スル換算表ヲ調製シ之ニヨリテ正量算出表ニモ正量欄ノ次ヘ正量封度ヲ挿入セリ、而シテ總全量及總原量ニ對シテハ本表ニヨリ正量檢査表ノ相當欄ニ封度ヲ記入スルコトトセリ疋ニ對スル封度ノ基礎的計算ハ左ノ如シ

（度量衡法施行令第一ニ依ル）

$$\text{疋ハ實ノ} \frac{4}{15} \quad \text{封度ハ實ノ} \frac{378}{3125}$$

$$\text{即チ} \quad 1\text{疋ハ} \quad 1.00 \times \frac{4}{15} = 0.266666666$$

$$1\text{封度ハ} \quad 1.00 \times \frac{378}{3125} = 0.12096$$

$$\text{故ニ} \quad 1\text{疋ハ} \quad 2.20458553 \text{ 封度}$$

$$1\text{封度ハ} \quad 0.4536 \text{ 疋}$$

換算表ノ調製方法ハ使用スベキ最大數（七〇、〇〇疋）ニ對スル封度ヲ算出シ之ヨリ

公定水分量ニ對スル水分率ハ前述ノ如ク初メ公定水分量ノ末位下一桁ニ於テ五(五瓦)ヲ減去シ一割一分ヲ以テ之ヲ除シソノ商ヲ八位ニ到ラシメ總無水量ヲ定ム次ニ總原量ヨリ總無水量ヲ減去シタルモノ即チ水分量ヲ總原量ニテ除シ之ヲ九位ニ止ムベシ、之ヲ所要ノ水分率ナリトス

然ルニ公定水量ノ末位一ヲ増減スルニ從ヒ水分率モ亦全一量ヲ以テ遞次變化スルモノナリ

而シテ其ノ比數ヲ發見スル方法ハ公定水分量十瓦ヲ公定水分率一割一分ヲ以テ除シ得タル商ヲ更ニ總原量ヲ以テ除シ其ノ得數ヲ八位ニ止ムコレ公定水分量一〇瓦ニ對スル水分率ナリトス

而シテ前段公定水分量ニ對スル水分率ヨリ之レヲ減去セバ第二段公定水分量ニ對スル水分率ヲ得ベシ

其實例ヲ示セバ左ノ如シ

例	總原量	60.00 ^K	公定水量
	總無水量	51.595 ^K × 0.11 = 5.67545 ^K = 5.68 ^K	
		5.68 ^K - 0.005 = 5.675 ^K	

5.675^K ÷ 0.11 = 51.5909090 公定水量5.68^K ノ場合ニ於ケル無水量

60.00^K - 51.909090 = 8.40909090 公定水量5.68^K ノ場合ニ於ケル水分量

$\frac{8.40909090 \times 100}{60.00} = 14.0151515$ 公定水量5.68^K ノ場合ニ於ケル水分率

$10 \div 0.11 = 90.9090909 \dots$ 公定水量10瓦ノ場合ニ於ケル水分率

$90.9090909 \div 60.00 \times 100 = 1515.1515$ 公定水量10瓦ノ場合ニ於ケル水分率

公定水量	14.015151515	水分率	
5.68 ^K	- 0.151515151	14.015 [%]	公定水量10瓦ノ場合ニ於ケル水分率
5.69	13.863636363	13.863 [%]	公定水量10瓦ノ場合ニ於ケル水分率
5.70	- 0.151515151	13.712 [%]	公定水量10瓦ノ場合ニ於ケル水分率
	13.712121212		公定水量10瓦ノ場合ニ於ケル水分率

運算

*以テ本數(90.90...)ヲ直チニ水分率ト認メ得ラルベシ)

斯ノ如ク總無水量及公定水分量ニ對スル水分率ヲ算定シ其ノ多寡ニヨリ順次之ヲ一表中ニ列記スルモノトス

正量算出表ノ例

總原量	水分率	總無水量	公定水量	正量	正量封度
△ 14.015	%	51.59 ^K	5.68 ^K	57.27 ^K	126.26 ^{LB}
14.008		51.60	"	57.28	28
13.991		51.61	"	57.29	30
975		51.62	"	57.30	126.32
958		51.63	"	57.31	34
941		51.64	"	57.32	37
925		51.65	"	57.33	39
908		51.66	"	57.34	41
891		51.67	"	57.35	43
875		51.68	"	57.36	46
△ 13.863		51.68	5.69	57.37	126.48
858		51.69	"	57.38	50

備考 △印ハ公定水量ノ變化スル段ナリトス

第五節 封度換算表

大正十一年檢定證ヲ英文ニ改ムルト全時ニ（其ノ以前ハ佛文ヲ採用セリ）輸出業者ノ希望ヲ容レ總全量、總原量及正量ノ三項ニ對シ封度ニ換算シタル數字ヲ列記スルコト、セシヲ以テ別ニ斤ニ對スル換算表ヲ調製シ之ニヨリテ正量算出表ニモ正量欄ノ次ヘ正量封度ヲ挿入セリ、而シテ總全量及總原量ニ對シテハ本表ニヨリ正量檢査表ノ相當欄ニ封度ヲ記入スルコトトセリ斤ニ對スル封度ノ基礎的計算ハ左ノ如シ

（度量衡法施行令第一ニ依ル）

$$\text{斤ハ實ノ} \frac{4}{15} \quad \text{封度ハ實ノ} \frac{378}{3125}$$

$$\text{即チ} \quad 1\text{斤ハ} \quad 1.00 \times \frac{4}{15} = 0.26666666$$

$$1\text{封度ハ} \quad 1.00 \times \frac{378}{3125} = 0.12096$$

$$\text{故ニ} \quad 1\text{斤ハ} \quad 2.20458553 \text{ 封度}$$

$$1\text{封度ハ} \quad 0.4536 \text{ 斤}$$

換算表ノ調製方法ハ使用スベキ最大數（七〇、〇〇斤）ニ對スル封度ヲ算出シ之ヨリ

十瓦ニ對スル封度量ヲ順次遞減シテ調製スルモノトス即チ左ノ如シ

貯	運	算	封	度
70.00	154.320985		154.32	
	- 0.022046			
69.99	154.298939		154.30	
	- 0.022046			
69.98	154.276893		154.28	
	- 0.022046			
69.97	154.254847		154.25	

第六節 正量算出表ノ使用法

正量算出表ノ使用法ハ先ヅ計算セントスル正量検査表中ノ總原量ト全一量數ヲ正量算出表中ノ總原量欄ニ之ヲ索メ更ニ表ノ水分率欄中ニ於テ検査表ノ水分率ニ比シ同一數又ハ少カラズシテ最モ近似セル量數ヲ索メ發見シタル時ハ其ノ索メタル一欄一行中ノ量數悉ク所要ノ量數ナルベシ、則チ總無水量、公定水分量、正量、正量封度等順次一行中ノ量數ヲ検査表ノ相當欄ニ記入セバ茲ニ計算ヲ完了シタルモノナリ、而シテ計算

上注意スベキ要點ハ表ノ水分率欄ノ數字ト検査表ノ水分率ノ數字ト引合ハス場合ニ之ヲ誤ラザルコトナリ、表ニ示ス水分率ハ其ノ無水量ニ對シ最小限度ノ數字ヲ表ハスガ故ニ其ノ數字ハ全クノ境界線ヲ示スモノナレバ検査表ノ水分率末位ニ於テ僅カニ一ノ相違ニテモ少キ場合ニハ下段ヲ取ルベキモノトス、又水分率九、九一ヲ境トシ其レ以下ハ總原量ヨリモ正量ノ増加ヲ示スモノトス

第六章 電 氣 掛

生絲乾燥用熱風ヲ起スタメ各乾燥器ニハ電熱器ヲ裝置ス、之ニ使用サル、電力又ハ一般ニ電化セル本所内各部ニテ使用スル電燈及電力用トシテ其ノ總電力容量六百七十五「キロ」ノ設備ヲ有スルガ故ニ本所ハ經濟上利益アル自家用變電所トシテ遞信省ノ許可ヲ得テ東京電燈會社ヨリ高壓ニテ送電ヲ受ケ之ヲ低壓トシ各部ヘ配電ス

電氣掛ハ此操作及取扱ヲナシ日時使用電力ノ記錄又ハ電氣器具ノ良否或ハ配線ノ絶縁試験ヲナシ以テ事業上遺憾ナキヲ期スルハ勿論若シ之ガ故障又ハ不便ヲ生ジタル場合ニハ模様替或ハ修理ヲ施ス、尙此外ニ停電ノ場合及化學試験用トシテ備ヘタル蓄電池ノ保守又ハ自働電話、電氣時計並ニ「エレベーター」ノ調査及補修等ヲ掌ルモノトス

第一節 電氣裝置

此大ナル六百七十五キロノ設備ハ十二個ノ變壓器ニテ分擔シ之ヲ技術上三個ヲ一組トスル四組ニ分チテ高壓回線ニ接續サル之ヲ使用先ノ配線別ニ區分スレバ次ノ如シ

變壓器容量

川西乾燥器百臺、スタンダード二十四臺其ノ他一臺
 第一組 百キロ三個
 第二組 百キロ三個
 第三組 百キロ三個
 計 二八六、七五キロ

以上 乾燥變壓器

化學用電熱 三キロ二個、一キロ四十五個
 〇、六キロ四個

五三、四キロ

溫濕度調節用電熱 二キロ一個、九キロ一個
 十キロ一個

二一キロ

練減用電熱 三キロ二個
 二キロ一個

八キロ

五十キロ三個

其ノ他電熱 食堂、炊事場
 湯沸、ヒーター等

七五、四キロ

絹業試驗所用電熱 三キロ一個、一キロ九個
 カイボン燈二、六キロ一個

一四、六キロ

格付其ノ他ノ動力 四分ノ一馬力五臺
 八分ノ一馬力九臺

二、五キロ

計 一七四、九キロ

以上一般電熱用變壓器

電燈用燈數 八百八十五個
 平均八十ワットトスレバ

七〇、八キロ

品位及格付用 水銀ランプ並ニ晝光ランプ
 八個五〇〇ワット

四キロ

化學晝夜用電熱其他

第二組

百ヴオルト
 百五十キロ
 電熱用變壓器

第三組

三十五キロ三個
 百〇五キロ
 百ヴオルト
 電燈用變壓器

四、六キロ

格付其他動力

三、八七キロ

計 八三、二七キロ

品位部動力

四分ノ一馬力二十八臺、二分ノ一馬力四臺、一馬力一臺

一〇キロ、一〇馬力

格付動力

二馬力一臺、四分ノ一馬力一臺

二、二五キロ、一、二五馬力

人員用エレベーター用

一〇馬力二臺

二〇キロ、二〇馬力

乾燥エレベーター用

一馬力二臺

二キロ、二馬力

練減動力

二馬力一臺、二分ノ一馬力一臺

二、五キロ 二、五馬力

變電室動力

三五馬力一臺、一馬力一臺、二馬力一臺、一、三六キロ電熱器一個

第四組

四十キロ 三個
二百二十キロ
二百ヴォルト
三線式

一動力用變壓器

三九、三六キロ、三八馬力

機械工作動力

二馬力一臺、三分一馬力一臺、二分ノ一馬力五臺、四分ノ一馬力二臺

五、三三キロ、五、三三馬力

其ノ他ノ動力

五馬力一臺、三馬力一臺、二分一馬力一臺、一馬力一臺

九、五キロ、九、五馬力

絹業試験所用動力

三馬力一臺、二馬力一臺、二分一馬力二臺、十分六馬力一臺

六、六キロ、六、六馬力

計 九七、五四キロ

合計 六四二、四六キロ

〃 六七五、キロ

之等總テガ東京電燈會社ヨリ三千三百ヴォルトニテ送電ヲ受ケ之ヲ動力用ハ二百ヴォルトト其ノ以外ハ全部百ヴォルトニ變壓シ各部ヘ送電ス

第二節 變電室及配線

八八

電氣工事ハ總テ逓信省電氣工作物規程ニ基キ施行スベキモノナルヲ以テ本所ハ變電所設備並ニ配線工事及器具裝置ト雖モ其ノ規程ニ準ジ施行サレ居ルモ尙茲ニ電氣上必要ナル條件ヲ約言スレバ

一、電線ニハ電氣抵抗ヲ有スルガ故電流ニ比例シテ熱ス此爲安全電流率必要ナリ、
コンヂット配線ニテハ露線ノ場合ノ約六割ニ減ズ

二、負荷ノ散荷率ト稱シ全負荷ヲ各所ニテ一時ニ使用シナイ若シ使用スルコトガアツテモ少時間デアルモノトシ設備サルコトアリ

三、電動機ハ起動ノ際數倍ノ電流ヲ通ズルガ故特ニ安全ヲ見ル必要アリ
此外ヴォルト及位相ノ差(フェーズデフェレンス)ノ相違又ハ直流ト交流トハ使用スルモノニ依テ非常ニ異ナレリ

次ニ變電室ノ配電盤ハ大理石ニテ作ラレタル十八面ヲ備ヘ右端ヘ受電幹線ヲ導キ其ノ内五面ヲ高壓側トシ順次動力用、一般電熱用、乾燥用及電燈用トシテ使用サレ之ニ六個ノ「オイルス井ツチ」ヲ附シ幹線ニハ本線又ハ豫備ノ二様トス、低壓側ハ十三面アリテ多數ノスキツチ及測定器具ヲ備ヘ乾燥用ニハ四面ノ配電盤ヲ充テ之ニ二百アムベア四個二百五十アムベア二個ノ各三極ナイフスキツチヲ附シ百ヴォルト三線式ニテ乾

燥室ヘ送電ス

第三節 乾燥電熱

送電ヲ受ケタル乾燥室ニテハ三回線及五回線ノ二組ニテ配電盤ニ受電シ三極スキツチ八個ニテ室内開閉ヲナシ之ヲ床内「トラフ」配線ヲナシ更ニ小區分サレテ各乾燥器ヘ配電ス、尙川西乾燥器ハ四個ニ一宛別ニ送風電動機用スキツチヲ附ス

次ニ川西製乾燥器ノ電力ハ二、二五キロニシテ數條ノニクロム線ガ素燒及鐵棒ニ取付テ之ヲ器ノ横側ニ陶器製ターミナル盤ニ接續シ細キ三條ハ上部兩切パーキングスキツチニテ開閉シ又之ハサーモスタットニテ加減裝置ヲ經コイルニ通ズ下部三段切パーキングスキツチハ太キ電熱線ノ開閉ヲナス送風用電動機ハ四分一馬力百ヴォルト一分間千四百六十回轉ニシテセンチュリーレバルジョン式ナリ

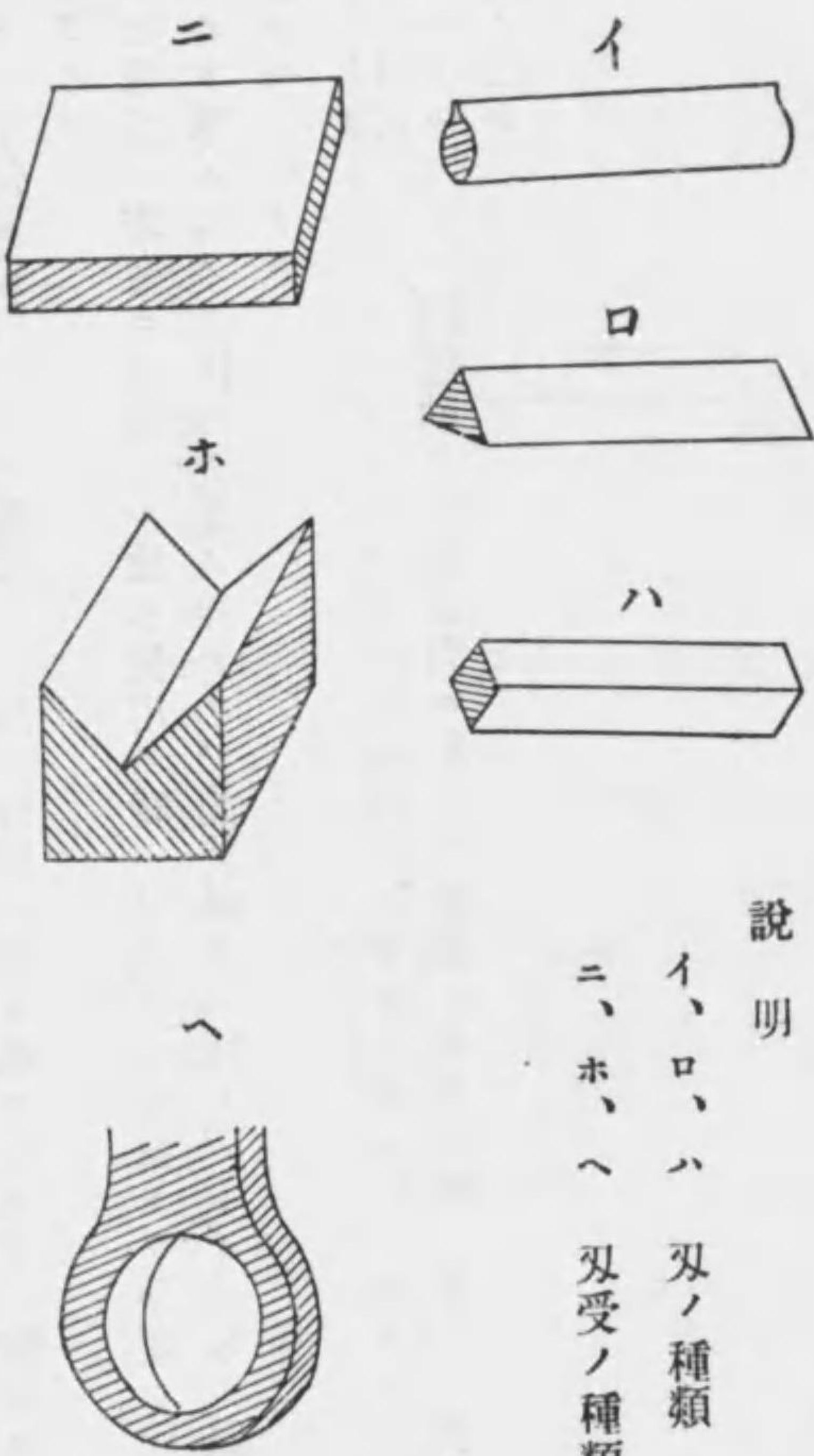
スタンダード乾燥器ハ二キロニシテニクロム線一條ヲ長方形鐵箱内ニ取附之ヲ十六分一馬力二千三百回轉ノ送風用電動機ニ直接取附アリテ各乾燥器毎ニ一個ノ電動機ヲ附ス、之ニ依ツテ一個ノパーキングスキツチニテ電熱器及電動機ヲ同時ニ開閉セラル一般ニパーキングスキツチハ故障起リ易ク之ガ取扱ニハ細心ノ注意ヲ要スルモ若シ故障ノ場合ハ其ノ乾燥器ノナイフスキツチヲ切りタル後檢スルコト最モ必要ナリ

八九

第九章 衡器

第一節 構造及作用ノ概要

秤ハ物体ノ輕重ヲ秤定シ又ハ比較ニ用ウル器械ニシテ其ノ構造ハ大体一本乃至數本ノ横杆ヨリ成リ其ノ作用ヲ目盛若クハ指針ニテ表示ス
 横杆ニハ互ニ相等シキ硬度ヲ有スル及ビ双受ヨリナル支点、重点アリ、此支点、重点ノ距離、支点ト錘トノ距離ヲ適當ノ比例ニ割リ大ナル重量物ヲ小ナル重量ノ錘ニテ計量スルコトヲ得、此種ノ秤ヲ不等臂秤ト云ヒ天秤ノ如ク支点、重点ノ比例ガ左右相等シキモノヲ等臂秤ト云フ
 自動秤ハ横杆ノ作用ヲ「スプリング」「ラック」及「ピニオン」ニ依リ指針ニ廻轉ヲ與フルモノト單ニ「スプリング」ノ伸縮ヲ其ノ儘利用シタルモノ等ナリ
 前述ノ支点、重点ハ要部中ノ要部ニシテ差狂ハ主ニ此要部ノ双先及ビ双受面ノ毀損、磨滅ニ原因スル事多シ、及ビ双受ノ形狀ハ大体左圖ノ如キ種類ニシテ其ノ材料ハ普通瑪瑙、鋼等ヲ用フ



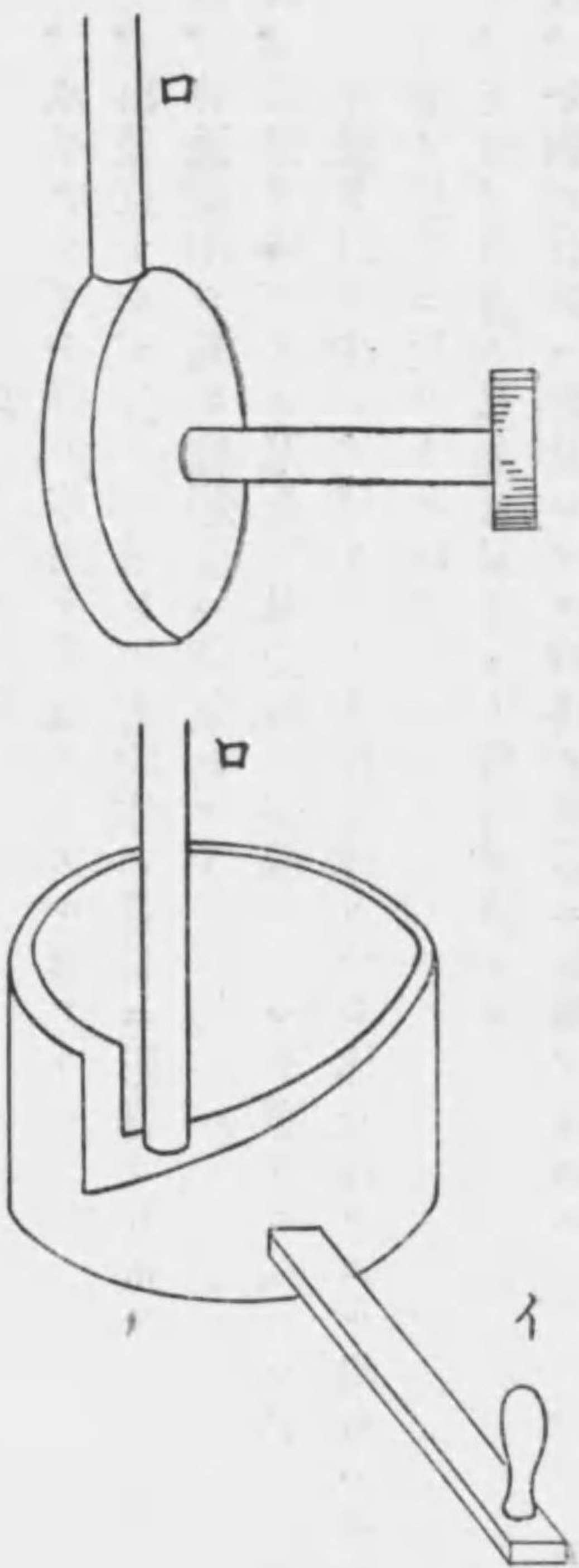
説明

イ、ロ、ハ 双ノ種類
 ニ、ホ、ヘ 双受ノ種類

次ニ目盛ノ出發点即チ零点ヲ直点又ハ標点トイフ、直点モ標点モ同意味ニテ臺秤ノ如ク桿ニ目盛アル場合ノ出發点ヲ直点トイヒ自動秤ノ如ク目盛板ノ目盛ヲ針ガ指ス装置ノ出發点ヲ標点トイフ
 直点、標点ヲ調整スル装置ニ調子玉アリ之ハ概ネ桿ノ一端又ハ兩端ニ取附ケラレ其ノ

進退ニ依リ其ノ作用ヲナス此作用ハ桿、横杆其ノ他附屬品ノ重サヲ加減スルモノナリ
 同ジク調子玉ニテ直点、標点ヲ調整スル調子玉ニ似テ天秤ニ限リ指針ノ上部ニアルモ
 ノハ其ノ玉ノ上下ノ位置ニ依リ指針ノ振りヲ加減スル用ヲナス、即チ此玉ノ上下ハ感
 量ノ多少ヲ表ハス此調子玉ハ桿ノ重心ノ位置移動ヲ利用シタルモノナリ
 感量トハ單位質量例ヘバ一厘又ハ一庭ノ分銅ヲ秤ニ載セ桿ガ元ノ位置ヨリ移動シタル
 角度ヲイフ
 又及ビ受ハ非常ニ大切ナル故不使用ノ時ハ及先トセ受面トヲ分離シ同時ニ桿ヲ休ム
 ルモノト單ニ桿ノミ休ム装置ノ秤アリ、此装置ヲ「休ミ」トイヒ及ノ退クモノト及受
 ノ退クモノトアリ

天秤ノ桿抑ヘハ「ハンドル」ノ軸ニ取附ケラレタル「カム」ノ動キヲ利用シタルモノ
 ニテ「カム」トハ圓運動ヲ往復運動ニ變ズル仕掛ニシテ天秤ニ於ケル其ノ形狀ハ大畧
 左圖ノ如シ



説明
 イ、ハンドル
 ロ、桿抑ニ固
 定セル棒

(イ)ヲ左右ニ廻轉又ハ移動セバ (ロ)ハ「カム」ノ斜面(圓周)ノタメニ上下運動ヲナ
 ス

第二節 使用心得

- 一、秤ハ常ニ水平ニ据付クル事
- 二、直点又ハ標点ヲ檢スルコト
- 三、天秤ニ於ケル感量調整玉ニ手ヲ觸レヌ事

- 四、天秤ノ「ハンドル」ハ静カニ廻ス事
- 五、分銅ノ上ゲ下シハ天秤ヲ必ズ休止シテ後ナス事
- 六、分銅ハ磨滅セヌ様静カニ取扱フ事
- 七、桿及指針ヲ充分ニ振ラシメテ計量スル事
但作用体トナシタル瞬間指針若シクハ桿ガ静止ノ状態ニアル時ハ數秒間放置シ移動スルヤ否ヤヲ注意スベシ
- 八、臺秤ヲ休止体ヨリ作用体ニ作用体ヨリ休止体ニスルニハ急激ナラザル事
- 九、風袋ハ常ニ一定量ニ調整スル事

以上説明

- 一、水平ナラザル時ハ作用上差狂ヲ生ズル事アリ
- 二、出發点ナルガ故ニ計量シタル物体ノ重量ニ影響ヲ及ボス
- 三、普通使用シ易キ様適度ニ調整シアリ
- 四、毀損ヲ防グタメ及先ト及受面ト接觸スルマデ静カニ「ハンドル」ヲ廻シ後指針ノ呼吸ヲ計リ少シク早ク廻シテ作用体トナシ休止体トスル場合ハ指針ガ目盛板ノ中央ノ位置ニ戻リタル時静カニ行フ
- 五、支点、重点ノ及先及受面ノ毀損ヲ防グタメ
- 六、分銅ノ磨滅ハ計量シタル物体ノ重量ニ影響ヲ及ボス

七、桿及指針ハ一方ノ振リノミニテ斷定セズ少クトモ一、二回ノ往復ノ振リヲ見ルコト
ト、但書ハ實際釣合ヨキトキハ數秒間放置スルモ指針モシクハ桿ノ移動スルコト
ナシ

八、五ト同ジ

九、計量上誤差ヲ生ゼヌ故

要スルニ以上ノ各項ニ留意シ衡器ヲ使用セバ要部ノ毀損スル事ナク從ツテ差狂ヲ生ジ
又ハ無感量トナルコトナク常ニ正確ナル計量ヲ期ス

終
リ

附
錄

諸届書様式ト其心得

官吏ニハ官吏服務規律ガアリマス雇傭員トテモ之レニ準ズベキコトハ申スマデモアリ
マセヌガ其ノ服務規律ノ外ニ又役所ニ定メラレタル規則ガアツテ所員ノ取締ヲシテ居
リマスガ學校カラ出タバカリデ勤メラレタ方々ハ其レヲ御存ジナイタメ届ヲ怠タツタ
リスルコトガアリマス故ニ初メテ本所ヘ奉職サルル方ノタメニ最近庶務課カラ書式ノ
通知ガアリマシタカラ左ニ普通ノ場合ニ於ケル手續ヲ記シマス


欠勤届 

病氣ノ爲欠勤仕候間此段御届申上候也


私儀

昭和 年 月 日

部課

職氏名 

所長宛


病氣欠勤届 

私儀

病氣引籠中ノ處未タ全癒ニ至ラズ候ニ付尙引續キ何日間欠勤療養仕度別紙醫師診斷書相添此段御届申上候也

昭和 年 月 日

部課

職氏名 

所長宛

轉地療養願 

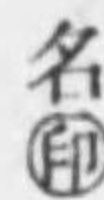
私儀

病氣加養中ノ處向フ何日間療養ノ爲何府縣問御許可相成度別紙醫師診斷書相添此段奉願候也


何某方へ轉地致度候

昭和 年 月 日

部課

職氏名 

所長宛


轉地療養追加願 

私儀

病氣ノ爲轉地療養中ノ處尙引續キ加養仕度候間向フ何日間御許可相成度別紙醫師診斷書相添此段奉願候也

昭和 年 月 日

部課

職氏名 


所長宛

祭 日 届 

私 儀

本日(來ル) 日(亡父(母)何某ノ何回忌ニ相當致候ニ付法要ノ爲休暇相
受候間此段御届申上候也

昭和 年 月 日

部 課 職 氏 名 

所 長 宛

歸省(旅行)願  (年末年始ノ休暇中)

私 儀

昭和 年 月 日ヨリ昭和 年 月 日マテ何日間何府縣

何某方へ歸省(旅行)致度候間御許可相成度此段奉願候也

昭和 年 月 日

部 課 職 氏 名 

所 長 宛

歸省(旅行)願 

私 儀

賜暇相受ケ 自昭和 年 月 日 何日間何府縣
至同 年 月 日 何某方へ歸省(旅

行)致度候間御許可相成度此段奉願候也

昭和 年 月 日

部 課 職 氏 名 

所 長 宛

徴兵受檢届  (當地ニテ受クル場合)

私 儀

來ル 日横濱市(検査場)ニ於テ執行ノ徴兵検査受檢ノ爲欠勤仕候間此
段御届申上候也

昭和 年 月 日

部 課 職 氏 名 

所 長 宛

徴兵受檢届



(歸郷旅行)

私儀

來ル 日(檢査場)ニ於テ執行ノ徴兵檢査受檢ノ爲 自昭和 年 月 日
何日間何府縣 何某方へ歸郷(旅行)致候間此段御届申上候也

所長宛

部

職氏

名印

簡閱點呼參會届



(當地ニテ受クル場合)

私儀

來ル 日横濱市(點呼場)ニ於テ執行ノ簡閱點呼ニ參會ノ爲欠勤仕候間
此段御届申上候也

所長宛

部課

職氏

名印

簡閱點呼參會届



(歸郷旅行ノ場合)

私儀

來ル 日(點呼場)ニ於テ執行ノ簡閱點呼參會ノ爲 自昭和 年 月 日
何日間何府縣 何某方へ歸郷(旅行)致候間此段御届申上候也

所長宛

部課

職氏

名印

演習召集應召届



私儀

今般 週間演習召集ヲ命ゼラレ候ニ付應召ノ爲昭和 年 月 日
日出發昭和 年 月 日歸所ノ日取ヲ以テ(所屬部隊)へ入隊致候
ニ付此段御届申上候也

部課

職氏

名印

所長宛

追テ御用ノ際ハ何府縣

何某方へ御通報被成下度候

横濱市中央區萬代町二丁目三十五番地
 印刷人 神 戸 秀 昌
 横濱市中區萬代町二丁目三十五番地
 印刷所 神 戸 印 刷 社
 電話長着町三〇〇五番

昭和三年七月十一日印刷
昭和三年七月十三日發行

生絲検査所

印刷人 神 戸 秀 昌

横濱市中區萬代町二丁目三十五番地

印刷所 神 戸 印 刷 社

電話長着町三〇〇五番

317
943

終

